

NPO 法人 空堀川に清流を取り戻す会

会報 からぼり川 第100号

NPO 法人 設立20周年 記念号



## 表紙 2016年 空堀川・川まつり

空堀川・川まつりは、東京都・東村山市・美住自治会・地元各種団体と当会からなる空堀川・川まつり実行委員会で行われています。

p. 4 小林前理事長のご寄稿にあるように、最初は平成 11(1999)年に通水まつりとして始まり、例年5月の最終日曜日に美住町のからぼり広場付近で開かれています。からぼり広場は、新青梅街道が空堀川を渡る浄水橋の下流で、鯉のぼりが目印です。

ぜひ、おいでください。

下は、第 21 回(2019 年)のまつりのポスターです。

2019年 令和元年  
第21回 空堀川・川まつり  
5月26日 (日曜日)  
10時～午後3時  
雨天中止

浄水橋 東村山 浄水場前 新青梅街道 野口橋  
空堀川 西武国 分寺線 府中街道

会場: からぼり広場  
(鯉のぼりが目印)

水質検査 災害救助犬 救急救命 和太鼓 カイボリ 丸太切り かもレース カヌー フリーマーケット 舞台

主催: 空堀川・川まつり実行委員会 後援: 東京都 東村山市 協賛: 東京新聞 ASA東村山南部 毎日新聞

お問合せ: 市道路河川課 042-393-5111

# NPO 法人 空堀川に清流を取り戻す会

## 会報 からぼり川 第100号、NPO 法人設立20周年 記念号

### 目次

頁

#### 1. はじめに

我が空堀川 理事長 友保 邦弘 3

#### 2. 当会の歩み

ささやかな通水式 前理事長 小林 寛治 4

#### 3. 会報からぼり川第100号、空堀川に清流を取り戻す会 NPO 法人設立20周年 によせて 6

からぼり川第 100 号、NPO 法人設立20周年によせて  
東村山市長 渡部 尚 6

空堀川における水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定の改正について  
渡邊 勇 7

変わり行く空堀川とともに 宮澤 とよ美 8

空堀川から学んだ「川」の自然 今泉 安広 10

空堀川と森永の共生の歩み 菅原 幸男 12

#### 4. 空堀川への思いなど

会員より

これからの空堀川は 正路 妙子 14

空堀川と共に 島崎 よう子 14

空堀川の草木 有川 栄子、佐々 博子 15

空堀川ってどんな川 有川 栄子 16

空堀川と私の 21 年 今濱 明子 16

当会と“からぼり川”に感謝！ 小倉 安洋 16

空堀川の思い出 北出 篤 17

空堀川と私 安藤 栄子 17

「土曜子ども講座」とのかかわり 平田 和彦 18

川と人の関わり 安岡 建依 18

川との関わり 安岡 雅永 19

空堀川とのおつきあい	垂水 荘司	20
学べども追いつかず	岡田 一郎	20
小彼岸桜に魅せられて	橋本 一郎	21
私と水	平田 健一	22
がたろう通信第 100 号発行に寄せて	石井 昭	23
空堀川に学ぶ	小池 久雄	24
川は流れる	大橋 隆之	24
川の楽しさと川への畏怖	小池 一平	25
会を拠り所として	原田 秀二	25
空堀川とともに	上町 弓子	26
空堀川を行く	荒川 昭彦	26
サラサラ ガタンゴトン	長谷川 賢司	27
がたろう通信特別記念号に寄せて	関岡 幸夫	27
自然に包まれて	小川 恭子	28
ほほえみの情景	高橋 衛	28
隠岐の島の山と旅	山口 雅晴	29
5. 空堀川に清流を取り戻す会のあゆみ(活動記録)	平田 健一	30
主な1年間の会の活動(写真)		36
当会の水質・水量調査結果(2005-2019)		39
6. 空堀川の将来像(柳瀬川・空堀川流域連絡会第7期まとめ)		41
7. 現在の空堀川の問題点と改善方法についての提案	平田 健一	42
編集後記	岡田 一郎	44

## 1.はじめに

このたび私共の「空堀川に清流を取り戻す会」はNPO設立20周年を迎え、また会報「からぼり川」が節目の100号となったため、記念号として本冊子を発行することになりました。

### 我が空堀川

### 理事長 友保 邦弘

私が入会したのは1999年(平成11年)6月15日です。確か中央公民館に置かれていた「がたろう通信 からぼり川」を見て、何か面白そうな団体らしいと思い、代表の小林さんに電話して入会させてもらった記憶があります。早いものであれからもう20年になります。

活動内容が少しずつ分かり始めたころから、クリーンアップや小学校の総合学習支援などのお手伝いに協力したり、その他のいろんな活動に参加してきました。

平成12年にNPO法人格を取得し、初代理事長に会の代表の小林寛治さんが就任され、その後10年あまりを経過してから私が平成22年に2代目の理事長を引き受けて今日に至っております。

会の最大の目的は会の名称「空堀川に清流を取り戻す会」そのもの、すなわち「清流を取り戻す」ことですが、その為の色々な提言・提案などの活動を行ってきたにもかかわらず残念ながら現在に至るまで目ぼしい成果を挙げることなく経過していることが誠に残念で申し訳ない気持ちでいっぱいです。

実は空堀川はごく普通に言われるような川ではありません。蛇行した川を人工的に拡張して直線にした言わば「雨水排水路」です。名前が示す通り普段から水量が少ないうえに、これまで川でなかったところを川にしているので工事が進むにつれて水の地下浸透が激しいため更に流水が減少してわずか数日雨が降らなければ完全に干上がってしまうのです。市内の前川や北川は柳瀬川と水で繋がっているのでアユが遡上しています。もし空堀川と柳瀬川が水流で繋がっていれば当然ながらアユが遡上してくるのです。

柳瀬川・空堀川流域連絡会が平成18年に策定し、平成20年の東村山市環境建設委員会でも確認された「水量確保10の提言」のうち、即効性の高い水再生センターから「高度処理水」を導入する方法と、時間はかかるが水循環の根幹をふまえた「雨水浸透施設の拡充」で地下水を涵養し湧水を復活させるというこれら2項目の実現が望まれるところです。一般民家、集合住宅、公共施設など屋根のある建物には全て雨水浸透柵を、また道路や駐車場には雨水浸透トレンチを設置すれば今後予想されるスーパー台風、スーパー低気圧による想像を絶する豪雨でも溢水災害を回避することが期待できるのです。降った雨はゆっくりと時間をかけて湧水となり、何時でも清らかな水が豊かに流れ、魚や水棲生物が住み着き、誘われて鳥や蝶々や生き物が集まり、子どもが、若者や年寄りが……全ての市民が憩える緑豊かな水辺空間が出現するのです。いかがでしょうか？



まず足元の東村山市から始めませんか！「川の再生」に関心のある人が日本の各地から見学に来る。川を蘇らせた実例を見たいなら先ず日本の東村山市に行ってみようとして世界中から注目される。東村山市を「世界標準都市」にするのです。市民と行政が一体となってこの夢を実現させることを心から強く強く願います。

当会もお陰様で、多くの皆様のご支援を頂いて今日まで活動を継続することが出来ております。どうか今後共よろしくお願ひ申し上げます。有り難うございました。

## 2. 当会の歩み

### ささやかな通水式

前理事長 小林 寛治

平成10年3月 天王橋から上流の浄水橋までの工事が終わり、未改修の浄水場前の川の水を新しい川道に切り替える作業が行われました。

東京都北多摩北部建設事務所工事第二課(以下 北北建)、工事係の担当者と工事を行った今村組の担当者のわずか数名のささやかな通水式でした。神主抜きで、一升瓶を開け、工事の完成と、川の安全を祈願して、お神酒を土に注いだ関係者だけのささやかなイベントでした。

これで、天王橋から上流、浄水橋までの区間が完成し水が流れたのです。



この後、下流部の本町、栄町の町会、商店街、商工会、消防署等に北北建が呼びかけ、平成11年5月「通水まつり」が行われました。翌年からは、名称が「川まつり」になり、例年5月末の日曜日になりました。私たちのところにも、北北建 工事二課長から、参加の呼びかけがあり、私は参加する条件として、からぼり広場に鯉のぼりを揚げられるような支柱をたてて欲しいと要望し、これが実現しました。対岸の支柱は東京電力の電柱の廃材をもらいました。

この川まつりに際し、流域の町会、商店会、商工会、消防署、私たちも参加して、北北建が主催者となり市役所で、完成した(空き地)各場所の愛称を決めることから始めました。「からぼり広場」は会が、対岸の「ユリの木広場」は会員の岩切氏が命名したものです。ユリの木を植樹して、記念碑を北北建が建てました。現在、ユリの木は高木に育ち夏場の木陰を提供しています。

第一回の通水まつり 1999年5月30日



左の写真は第一会場の野口橋、右の写真は第二会場からぼり広場。第三会場は天王橋右岸でした。当会は、川まつりの副会長として第二会場を受け持ちました。

1997年1月6日 からぼり川 創刊号 >>> 2019年10月12日からぼり川第99号

<h1>からぼり川</h1> <p>創刊号</p>		空堀川に清流を取り戻す会 <b>がたろう通信</b> 発行者 東村山市美住町 1-13-14 小林寛治 0423-91-4003 発行日：1997年1月6日
<p>改修中の空堀川</p>		<p>町河川改修は、下流部より進捗してをりますが、これから末                  町陸橋より上流部にかかる工事は大工事になるようです。</p> <h2>空堀川を守る会が できまじた</h2>
<p>改修後の空堀川</p>		
<p>市内内における工事計画図は、見開き図面の通りであります。まっ直ぐな広い河川に成る予定                  です。この工事が完成した予定                  一時間雨量五十mmの降雨に耐え                  られる河川になるでしょう。一                  拳に流れ去り、また水無し川に                  なってしまいます。</p> <p>ここには「治水」の目的しか                  ありません。この雨水が河川に                  徐々に流れ込むように水量の確                  保ができないものでしょうか。                  また、このままですと                  計画からはみだててしまいう河川                  は暗渠化され、私たちの目にふ                  れなくなります。</p> <p>こここの歴史ある旧河川を生かし                  セセラギの流れる緑水公園の憩                  いの場として残すことが出来る                  手だてはないものでしょうか。</p>		

<h1>からぼり川</h1> <p>創刊号</p>		がたろう通信 第99号 2019年10月12日 発行
特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会 ホームページ: <a href="http://www.karaborigawa2.org/">http://www.karaborigawa2.org/</a> ブログ: <a href="http://karabori.exblog.jp/">http://karabori.exblog.jp/</a> 発行責任者: 友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市森山町 2-19-10		
<h2>空堀川 NPO 法人 20年の思い</h2> <p>友保 邦弘</p> <p>NPO 空堀川に清流を取り戻す会はもうすぐ20周年を迎えます。                  情報誌「カラボリ川」も来年1月に第100号を発行します。                  いろいろな意味で節目を迎えています。                  空堀川の最大の課題は、当会の名称が示す通り水枯れ対策を施して「清流を取り                  戻す」ことです。                  「柳瀬川・空堀川流域連絡会」で策定した、「水量確保対策10項目」の中の第8                  項「雨水浸透施設の拡充」は長期的な基本対策であり、第10項の「多摩川上流水                  再生センターの高度処理水導入」は最も即効性の高い施策であります。                  空堀川に関心のある各方面の皆様へ「みどり乏しき水無し空間」を返上して「み                  どり豊かな水辺空間」を取り戻す活動にご理解とご協力を期待します。</p>		
<p>みどり乏しき水無し空間</p>		

### 3. 会報 からぼり川第 100 号、NPO 法人設立20周年によせて

#### 会報からぼり川第 100 号、NPO 法人設立20周年によせて

東村山市長 渡部 尚

空堀川に清流を取り戻す会が NPO 法人設立 20 周年を迎え、会報第 100 号記念号を発行されることを心よりお喜び申し上げます。

NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会におかれましては、空堀川川まつりや空堀川クリーンアップなどで、市民と一体となって空堀川を親しみ、環境を守り育てるイベント等を通じて、市民の皆さまと空堀川をつなげ、東村山市の持続可能なまちづくりにご尽力いただいているところでございます。また、空堀川の生態系に着目し、どのようにすれば一年を通じて川に水を流すことが出来るか、日頃より市民が川で遊べるような自然豊かで親しみのある河川へすることが出来るか、について調査・研究ならびに政策提言に取り組んで頂いていることを、市長として敬意と感謝申し上げます。



空堀川につきましては、武蔵村山市の都立野山北公園内の丘陵地に源を発し、武蔵村山市、東大和市、東村山市、清瀬市と流れ、清瀬市中里付近で柳瀬川に合流する約 15 km ほどの河川となり、河川の管理は東京都で行っている一級河川であります。古くから雨が降った時だけ水が流れる枯れ川のため、「空堀川」と名付けられたとも言われております。晴天時は河川の水こそ流れていないことが多いのですが、河川内には草木が育ち、自然あふれる河川であります。また、河川の両岸に 3 m 程度の幅の管理用通路が整備されており、遊歩道として、散策したりジョギングをしたりする人が多く、広く市民に愛されながら利用されております。

東村山市としても、空堀川に対する市民の声を真摯に受け止め、改善に前向きに取り組んでおり、特に空堀川の水量確保の問題に対しては、東京都や近隣市町村、NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会の人達と一体となって、流域連絡会に参加し、問題点に対し前向きに議論を行ってきたところです。また、遊歩道を散策する市民等からの、遊歩道への信号機や街灯、トイレやベンチなどの設置の要望につきましても、遊歩道の管理者である東京都に対しても設置を要請するとともに、トイレやベンチなどは市で管理する沿道の公園内に設置するなど、市民の要望の実現に取り組んでいるところでございます。また、空堀川の近隣住民から、河川内の樹木伐採や河床堆積土のしゅんせつなどに関する要望につきましても、市民の声として東京都に依頼するなどその改善を図っております。また、近年懸念される洪水に対しましても、空堀川の下流にあります柳瀬川に関する時間 50 ミリ対応の早期整備の実現を私を先頭に東京都に強く要望するとともに、柳瀬川流域に存在する埼玉県内の市町村や東京都内の市町村で構成する新河岸川水系改修促進期成同盟会を通じ、埼玉県や東京都の他、地



元衆議院議員や都議会議員、県会議員に向けて要望書を提出し、河川改修の早期実現に向けて取り組んでおります。

空堀川には多くの課題もございますが、NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会の皆様におかれましては、今後とも協働のパートナーとして市民の立場からご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私どもといたしましても東村山市の豊かな自然を守り、未来へつなげていくために、市民の皆様と議論を重ね、知恵を出し合い、力を合わせていく所存でございます。

結びに、NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会の更なるご発展と、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

## 空堀川における水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定の改正について 渡邊 勇

私は、平成8年4月～平成9年9月まで東京都環境学習リーダー講座(3期生)を受講しました。同期の小林寛治さんや斉藤隆さん達と、長い間東京都内48河川の中で常に汚い順で1、2を競っていた空堀川に清流を取り戻すために「空堀川に清流を取り戻す会」を設立しました。会長に小林寛治さんが就



図1 昭和62年頃の空堀川

任され、私は主に水質担当になりました。その関係から空堀川の水質についての変遷を東京都環境局資料等から簡単に述べてみたいと思います。

空堀川流域は昭和40年代に、住宅や団地などの造成により人口が急増し、図1のように空堀川は生活排水や工業廃水により水質汚濁が進み魚のいない川となり、悪臭と水質の悪いドブ川になってしまいました。昭和50年代に下水道事業が開始されたところの空堀川のBODは、図2のように

20～60mg/Lでした。東京都は昭和51年3月、空堀川の水質が健康を損なわないために生活環境の保全に関する環境基準として最もゆるいE類型(BOD10mg/L以下)の河川に指定しました。昭和62年度以降は、下水道処理人口普及率が増加し、BOD値が年々改善しました。

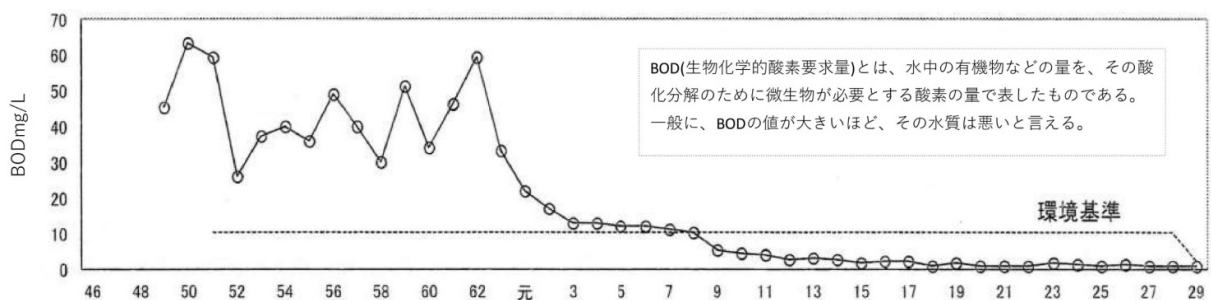


図2 空堀川における水質(BODmg/L年度平均値)の経年変化

以上のように下水道が完備され、水質が改善されたため、生活環境の保全に関する環境基準が見直されました。空堀川は最下流部の梅板橋を環境基準点とし、平成23年度～27年度のBOD測定結果がA類型相当であったため、平成29年4月1日付けでE類型から一挙にA類型に改正されました。しかし、水量が深刻な状況です。今後、改善されることを願っています。

項目 類型	利用目的の 適応性	基準値				
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶解酸素量 (DO)	大腸菌群数
A	水道2級 水産1級 浴槽及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN/100ml 以下
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと。	2mg/L 以上	—

図3 空堀川における生活環境の保全に関する環境基準(E類型からA類型)の改正

参考文献 1) 東京都下水道局 東京都流域下水道 50 年のあゆみ

2) 東京都環境局 平成 29 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果

## 変わりゆく空堀川とともに 川づくり・清瀬の会前会長 宮澤 とよ美

記念誌 100 号のご発行、心からお祝い申し上げます。

昭和 30 年代後半、岸辺の緑を写して静かに流れる空堀川の魅力に引かれて清瀬住民になり早や半世紀を超えました。助走をつければ対岸へ飛べそうな川でしたが、戦後の激動期空堀川もともに河川環境を大きく変化させ、その折々を見つめて参りました。

清々しい清流を見られたのもほんの僅か。経済成長とともに利便性追求の社会となり、消費は美德とばかり使い捨てるのは川の中、本当に汚れ切った時が長く、空堀川は毎年のように都のワースト 3 に入っていました。企業や家庭の雑排水の上に雨水も集中、少ない雨でも溢れ常に消防車の出動する川となっていました。

昭和 40 年代に入ると洪水対策として、下流から上流まで河川拡幅のための用地買収が進み、河川用地として白のフェンスで囲まれていました。

昭和 53 年現在の柳原橋が最初に完成。その上下流 50m が、管理通路を入れて 30m 巾に掘られ、ひとまず空堀川の洪水対策用調節池となり、新・旧の空堀川は太い土管で繋がられました。ところが 4m の深さに掘られた新しい河床から、澄んだ水が湧出し、たちまちガマやイネ科植物、タデ科植物等々これまで見たこともない湿地独特の植物で埋まり、やがてカモやバン・サギの類も舞い降り、この景観は人々の心をひきつけました。悪臭と汚濁の空堀川に背を向けていた人々もこの柳原橋に足を止め欄干にもたれて眺めている姿から、美しい河川が人々の心を癒す力の大きいことを強く印象付けられました。

柳原橋下流 薬師橋が、完成したのは8年後の昭和60年です。石田橋まで拡幅工事が完成し、新しい空堀川に流れが切り替えられました。残念ながら改修後の流水も臭気漂う汚濁の水、その上に真っ白い泡が河床を覆い、強風があれば橋上に舞い上がり、たちまち柳原橋下に生まれた憩いの生態系は消滅しました。

洗剤で泡立つ空堀川



その頃に清瀬を取り巻く10市の下水を処理するため、清瀬水再生センターが完成。昭和56年に運転開始されました。誰もがすぐに下水に直結という訳にもゆかず、流水が澄み始めたのは平成5年頃。それから2年ほどして、水中の小魚が鱗を日の光に輝かせて群れをつくる姿を見られた時の喜びは忘れられません。

水質の良い河川になると、オレンジの腹を絡み合わせたドジョウの繁殖や、水音を立てる鯉の繁殖等が橋から観察できます。

平成18年3月『柳瀬川・空堀川合流点付近の川づくり懇談会』が立ち上がり、空堀川最下流から500m上流で柳瀬川と合流をさせ、合流点下流を12m拡幅して、新柳瀬川と命名、新合流点計画がうごき始めました。その時、空堀川の総延長は15kmから14.5kmとなります。同年皆様のお力添えを頂き、新分流点下流の貴重な天然左岸を持つ柳瀬川の保全活動に入り、お蔭様で河畔林を持つ柳瀬川を残すことができました事は大きな成果でした。懇談会の席上で、分水のための水理模型実験を行うということになり、工事が大幅に遅れ人工的な新柳瀬川が平成27年3月完成。平成28年度には空堀川下流からこれまでの時間雨量30mmから50mm対応の改修に入りました。河床勾配のきつい清瀬分は、間隔短く9箇所落差工が設置されています。その内3か所は完成、吉村先生、萱場先生諸先生にご指導を頂き前年度の工事結果を検証しながら改修を進めて行きます。

2018年度完成の落差工

(流水が全面に流れ、水の少ない時は魚が遡上できない)



2019年度完成の落差工

(水の流れを中央に)



近年の自然災害の猛威を目の当たりにし、治水と多自然両立した川づくりが求められます。そして近い将来四季を通して流れのある空堀川を願い、全ての生き物に優しい自然豊かな河川になりますよう祈るばかりです。



2010年6月の柳瀬川

このころは、まだ清瀬下水処理場の処理水の柳瀬川への放流場所で泡立ちと匂い、水の色が残りました。現在はかなり良くなっています。

## 空堀川から学んだ「川」の自然

今泉 安広

私が空堀川に足しげく通うようになったのは、2005年4月以後でした。1995年夏に北多摩の「川」に巡りあい、都区内の河川との違いに興味をもち、遠ざかっていた水理学や河川工学の本をおさらいして、現場で確認し調査をしては、川の形状や流況についての理解を深めていました。2002年4月から3年間都区内に異動となり、橋梁や河川構造物の仕事に就き「川」とは離れていましたが、川への思いは尽きず元の河川の職場に戻って来ました。その3年間の洪水により、空堀川は大きく変化していました。この川の変状に、川への関心が惹き起こされたということです。

当時、浄水橋から馬頭橋の間を、「こどもの水辺」に指定するため、生きものが生息できる川にしようと、「空堀川に清流を取り戻す会」(以下「会」)の皆さんが努力をされていました。洪水に浸食され、川幅や勾配、深みなど多様な形状が現れてきて、流況(瀬淵)や水際線も川らしい姿になっていました。さらに、動植物の生息環境を改善したいという「会」の意気込みが感じられました。

初めに、群杭を使った暫定落差工跡地(写真1)に中洲を造りました。2006年7月の工事終了後にも増水による変状に合わせて改善を行い、2008年9月には中洲らしい姿(写真2)に落ち着いてきました。

(写真1) 暫定落差工 跡地

(写真2) 中洲



次に、施工したのは「ワンド」の造成(2007年2月)でした。河川でワンドが現れる場所は曲線部の下流ですが、直線区間での造成なので、洪水時に土砂で埋まったり、入り口が塞がってしまわないように工夫を要しました。(写真3)

ワンドの上流側にオギやヨシを植栽し、入り口に巨石を配置して、上流からの流れを入り口にぶつかるようにしました。

現在まで、「会」の皆さんが浚渫や清掃をしてワンドが維持されていることに敬服しています。その後の施工は、自然石の床止と水制の設置で、2008年秋に断続的に施工しました。これは、瀬淵による流況の改善や水際線の極端な侵食を抑制するための施工で、植栽工も併用し

て動植物の生息環境の改善を図りました。洪水によって水生動物が流されないようにしたり、また繁殖できる環境を整えようとしてきました。

2009年の定年退職の春に、浄水橋直上流の「床固め工」を設計・施工しました。これは、浄水橋下の堆積土砂で遮断されていた流れを回復する工事でした。堆積土砂を撤去し、床固め工を流下する滯筋が橋脚と並行に流れるような形状にしました。この工事により浄水橋下の土砂堆積が抑制され、魚類は橋下も床固め工も自由に行き来できるようになりました。(写真4)

(写真3) ワンド



(写真4) 床固め工



2007年度1年間の異動を挟み、本当に忙しい3年間でしたが、有意義な仕事が出来ました。この間に、「こどもの水辺」の指定が実現し、現在に至るまで多くの子供たちが川に親しんできたことは「会」の皆さんのご努力の賜物だと思います。

振り返ってみると短い期間でしたが、新野口橋下流の改良、丸山橋上流の改良、大沼田橋上下流の改良など、東村山市内だけでも随分と忙しかったような気がします。川の自然と地域の人たちに支えられた時を過ごすことができたのは、その後の私の人生に大きな蓄積になりました。そして、こうした機会を与えてくれました「会」の皆様方には心から感謝を申し上げます。

近年は、毎年大きな「水害」が発生しています。確かに、集中的な降雨が原因のひとつであると思われませんが、「川」の自然に対する姿勢にも原因がありそうです。水害は自然現象ですが、社会現象の側面も否定できません。川の「災い」も「恵み」も川の自然からすると同じだと考えています。大きな洪水の直後に現場を歩くと、十数年前の河川の状況が再現されていることがあります。その河川その区間の「骨格」が現れているような気がします。私が河川から学ぼうとしてきた「自然」とはこのことです。川はこちらが何かをすると、必ず応答してくれました。失敗すれば、ひどい仕打ちを受けることになります。そして、繰り返していけば、「骨格」が見えて来ます。より一般的な想像力も働くようになって感じています。

この25年間、川とともに生きてきたように思います。遠くの川にも行きましたが、身近な空堀川や柳瀬川から本当に多くの「糧」を得て来ました。多くの出会いにも恵まれました。

## 今泉さんから送っていただいた写真

馬頭橋～浄水橋の中洲 竣工時(2006.7.10)



ワンド トンボ・メダカなど(2008.8.12)



浄水橋上流(2012.6.26)



維持作業 (2008.12.22)



アオサギ(2008.9.22)



水制の下流側から(2012.6.26)



### 空堀川と森永の共生の歩み

森永乳業(株)東京多摩工場 OB 菅原 幸男

がたろう通信 第100号の発行、並びに、「空堀川に清流を取り戻す会」がNPO法人として20周年を迎えられるとのこと、重ね重ねおめでとうございます。高い理念に基づいた会員の皆様の長年にわたる活動と、その成果に対し深く敬意を表します。

私ども森永乳業も、年2回のクリーンアップに参加させていただき、空堀川の治水を目的とする拡幅直線化工事の進捗と、貴会の働きかけによって実現した親水のための整備事業をずっと見てまい

りました。20年前とは全く変貌した川の姿と、きれいな水。その一方でその流れの少なさには驚きを覚えます。

「空堀川に清流を取り戻す会」と森永乳業(株)東京多摩工場とのご縁の始まりは、1999年に小林寛治前理事長より「川の勉強会」へのお誘いがあり、これを受講したことがきっかけです。

空堀川の現状と課題の説明を受け、貴会が目指す理念に共感し活動に賛同した前任者が、同年秋のクリーンアップに職場の新入社員を連れて初めて参加いたしました。(余談ですが、この新入社員は今では排水を管理する工務職場の責任者として活躍中です。縁ですね。)

折しも、東大和市では1995年頃から下水道の共用が始まり、空堀川へ流入する生活排水が急速に減少し、1997年に残った流入水のほとんどが森永の工場排水という結果になっておりました。このことは工場排水＝空堀川の水ということであり、森永は空堀川の水量と水質を左右する重大な責任を負うこととなりました。この状況は今日まで続いております。

以来、工場では「排水処理では絶対に失敗は許されない」と認識し、排水処理施設の増強を図り、より強固な管理体制を築いてまいりました。清瀬水再生センター(下水終末処理場)の処理水(柳瀬川に放流)に負けないほどきれいな水に！を目標に運転管理をしています。

森永乳業東京多摩工場の高度浄化浄水池



工場では、環境方針として①環境負荷物質の低減、②限りある資源の有効利用、③産業廃棄物の削減、④地域社会との共生、を掲げて環境活動をしています。特に貴会のクリーンアップと川まつりへの参加は、空堀川の実質的な水源？(源流は野山北公園の谷戸)として「地域との共生」のための最優先取り組み事項と位置付けられております。

従業員の参加者は1999年の2名から始まりましたが、年々増え続け、今では東大和市の「空堀川を考える会」が主催するクリーンアップを合わせると協力会社を含め年間延べ200名を数えるまでになりました。工場経営層の理解と従業員の環境意識向上のもとに多くの参加者を得ていることは、周知活動と動員に関わった元担当者(2002-14)として嬉しい限りで誇りに思います。

他にも、貴会のイベントで森永乳業の環境活動の取り組みを紹介させていただく機会がありましたし、会員の皆様には毎年のように工場の排水処理施設見学に来ていただくなどして、長年交流を深めてまいりました。

今後も、相互に理解を深め合い、協力をしながら空堀川的环境を守って行ければ幸いです。

森永製品ともども、引き続きよろしく願いいたします。

## 4.空堀川への思いなど

### これからの空堀川は

正路 妙子

台風が過ぎ去ったあとの空堀川が、「空堀川に清流を取り戻す会」の願う清流をたたえて静かに流れ下っている光景をみると、こころ安らかな思いに満たされます。

会の活動が始まった頃の、改修直後の空堀川の河川敷には、外来種の植物群が我が世の春を謳歌していました。その後、ヤナギやクワ、クルミ、ニワウルシ(シンジュ)などの樹木が実生で育ち、今では大木になっているものもあります。美しいピンクのノイバラ、雌花・雄花に特徴のあるヒメコウゾやナンキンハゼの見られるところもあります。かつてある会員が、「まるで森のようだ」と表現したことがあるほどに、空堀川の河川敷は緑豊かな緑地となっています。

昨年の9月から10月にかけて相次いで上陸した台風による集中豪雨で、日本各地の河川が氾濫しました。そのニュースを目にした時、空堀川の上流域に熱帯低気圧が停滞して雨が降り続けたら、空堀川が溢水する恐れがあることを、私たち流域の住民は認識しました。今までに経験したことのない極端な自然現象が、世界各地から報道されています。今年の夏はヨーロッパでも40度を超える暑さが続き、ドイツでは樹木の立ち枯れが発生。森林の再生が喫緊の課題となり、高温に耐えうる樹木を植樹することが検討されています。

極端な日照りと、極端な豪雨。自然の水収支は、こうしてようやくバランスがとられています。これが、長年にわたる人間の活動の結果もたらされた現象であるとするならば、人間が何とかしなければ、居住可能な環境はますます狭まっていくことになるでしょう。16歳のGreta Thunbergの危機感の根源はここにあります。

雨水を大地に浸透させる必要性は久しく説かれてきたことですが、いまやそんな悠長なことを言っている段階ではないといえるでしょう。周囲に住宅が立ち並び、アスファルトで覆われてしまった空堀川が溢水することのないように、私たちは知恵を振り絞る時です。

### 空堀川と共に

島崎 よう子

4歳の息子と家族3人が住む家探しで通りかかった青葉町、マリア幼稚園の脇を流れる空堀川が午後の日を浴びてキラキラと輝き、雑木林と農地の緑に溢れ、ここに住みたい！と移ってきたのは40年前のこと。新宿育ちの私が自然に惹かれるのは、こどもの頃、夏休みになると宮城の田舎で過し、田んぼや川の風景と思い出が焼き付いているからに違いない。

キラキラしていた空堀川の水質は、実は都内ワースト1。空堀川を清流の流れる川にしたいと発足したばかりの当会に即入会。入会NO4。改修工事後は綺麗な川になったが瀬切れが生じ、その状態は年を追うごとにひどくなり、なかよし橋以降の下流は雨が降らなければ水涸れ状態。夏の季節は触れないほどの熱さの水路の石が無残。通水をするにはどうすればいいか。学習会もよくやった。初代理事長の小林さんがアイデアを出し、都庁水道局へ要望に行ったこともあった。私は貯留槽設置等、地下水を涵養するための質問・提案を議会でしたり。



自然本来の姿に近づける川、人が親しみ触れ合える川にしたい。2018年、御成橋に親水階段設置が叶った。川に魚が棲めるように水際に草を残す、在来種を残す当会の提案が実を結んだ。業者が行う草刈り前の事前調査で、残す草木をチェックする。有川さん・正路さんと、下流から上流へ歩きながら野草の名前や特徴を教えてもらえるのが楽しくて楽しくて。災害時には、食べられる草花を探し出してお二人は生き延びられるのに、私はあえなく息絶えてしまうだろうって。

この10年、メンバーも入れ替わり新しい仲間たちと空堀川に清流を流す案づくりも追い込みだ。

「川まつり」では毎年、息子家族と会う。小3の孫がカヌーに乗って大喜びしていた。

## 「空堀川の草木」 有川栄子さんと佐々博子さんのイラスト・写真

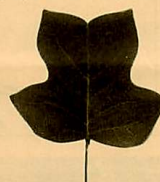
有川さんと佐々さんは、「空堀川の草木」として「からぼり川」第28号ユリの木、セイバンモロコシ～第71号ノイバラまで、イラスト・写真で42の植物をご紹介して下さいました。

**空堀川の草木** ユリの木 (もくれん科) 佐々博子

半纏を広げたような独特な葉は、他の木と区別しやすい。5月頃咲く花は薄緑で、下方にオレンジ色の帯もつけ、とってもお洒落。チューリップ形の花は上向き。蜜は1花から小さじ1パイ位出るといわれる程。蜂たちにとっても魅力的な木。花ことは「田圃の幸福」すてきですね。

なお、新宿御苑の中庭に樹齢130年位の有名な3本の大樹があります。上野の国立科学博物館中央玄関前にも。

著者のことば：初回ですので、「通水まつり」に記念樹として私たちが選んで浄水橋前に植えたユリの木にしました。端正、そう快、壮大で樹木の王者と言われている木です。



ユリの木の葉

**空堀川の草木 ②** セイバンモロコシ (イネ科) 有川栄子

空堀川兩岸の河道ぎわにたくさん生えている多年草の植物です。アフリカ原産の帰化植物で、荒地、埋立地、土手などに群落を作り、地下茎が横にはって繁殖します。茎は太く、高さ1~1.8mになります。9月頃に大形の穂をつける。小穂は、雄花と両性花とからなり、紫褐色に黄色が混じっています。スズメが群がって実を食べます。



**空堀川の草木 41** カワツザクラ (バラ科サクラ属) 有川栄子

空堀川の馬頭橋右岸際に2007年3月カワツザクラ3本が植えられた。今はもう4メートル以上に成長している。一昨年末心ない者に半数の木が大きく折り取られ、傷つけられてしまった。その後すぐに「小彼岸桜の会」の会員により傷の手当がなされ、春には見事な花を咲かせ、散歩を楽しむ人々を喜ばせた。今年も桜の開花を待ち望んでいるのだが、寒気が強いせいか開花が随分遅れている。2月24日現在では蕾が堅かった。

カワツザクラは伊豆半島の河津町で1955年に見出された。全国的にはまだ十分には知られていないが、ソメイヨシノなどの桜に先駆けて2月中頃に開花する。この桜は自然雑種で、親はカンヒザクラとオオシマザクラ。暖かい河津町に植えられた沖繩のカンヒザクラに、周辺に自生していたオオシマザクラが交雑したのではないかとされている。花は直径約3センチ位。濃いピンクをしている町の中を流れる河津川沿いの桜並木は、大勢の観光客で賑わう。街中の民家の庭先に河津桜の大きな原木がある。



馬頭橋際のカワツザクラ 2011年2月



河津町のカワツザクラ原木 2011年3月1日

**空堀川の草木 42** ノイバラ (ノバラ) バラ科 有川栄子

野原や川岸、林縁に自生する落葉低木。鋭い棘(トゲ)だらけの枝を四方八方に広げて、高さ約2mの茂みを作る。葉は互生、奇数羽状複葉で、小葉は1~4対、羽軸にも棘が多い。初夏、枝先に円錐花序を出し、良い香りのする白い5弁花を咲かせ、虫たちを引きつける。果実のように見える偽果は径6~9mmの球形で秋に赤く熟す。ノイバラはとても丈夫で繁殖力があるので、大輪のバラなどの台木にも使われている。

空堀川の下堀橋(青葉町)上流の右岸にノイバラのブッシュがあり、今年も5月上旬から白いたくさんのお花を咲かせ芳香を放っている。真夏になると、カナムグラやヤブガラシなどの蔓草に覆われてしまう。その近くに、少し遅れて、淡いピンクのノイバラも咲く。

ゲーテの詩にシューベルトが作曲した「野ばら」は、植物学者・湯浅浩史氏によれば、ヨーロッパのピンクの野ばらとのこと。空堀川のノイバラは、「野ばら」をドイツ語で歌った遠い日の記憶を甦らせてくれる。



偽果 (直径1cmに満たない)



このシリーズは今回で終了します。

## 空堀川ってどんな川

有川 栄子

「がたろう」って何？「河太郎」、「河童」の別名であることを知りました。私は昭和41年に青葉町に引っ越してきました。当時は篠竹が茂る小さな堀川だったような気がします。

「空堀川」という名称だったかも記憶にありません。人口が急増し川も改修されましたが、蛇行していた流れは真っ直ぐな川になってしまいました。あちらこちらから家庭雑排水が流れこみ、都市河川ではワースト1と言われた不名誉な川でした。そんな川を魚が棲める清流にしようと熱い熱い思いを抱いた人々が集まる団体「空堀川に清流を取り戻す会」を知り、平成9年の秋に入会しました。

まず空堀川がどのような川なのか知るために、歴史調査部会が発足したので入部し、私は川沿いの農家の人々の話を聞き取りに歩きました。この川の下には伏流水が流れていると強調する人。武蔵野線が地下を通ることで井戸水の水脈が切断されたこと。農業を営む家々は川から離れた高台に住居を構えていること。それぞれの橋の話等々、文献を集め調査は大変楽しい活動でした。

この頃夢に見るのはカルガモの群（三十羽位）、白鷺が飛ぶ空堀川。ハヤが泳ぐ空堀川。

## 空堀川と私の21年

今濱 明子

私が入会した21年前の空堀川は、現在と違って水は汚れていましたが水量が多く、小魚や水鳥やその他の小動物が多く見られ、ほとんど毎日楽しみながら側道を散歩していました。中でも一番印象に残っているのはカルガモ親子の姿です。母親が10羽ほどの子ガモを従えて上流から下流へ移動する様子は、とても微笑ましくてかわいい姿でした。当世の虐待ニュースなどを見ると野鳥にも劣る始末です。

河川改修の工事が進行するにつれて、水枯れが頻発しています。生き物が姿を消してしまったために、散歩も味気ないものになってしまいました。自分でも何かしなければという思いから花の苗を種から育てて子どもの水辺の花畑に植えたり、川まつりの時に花のポット苗をつくり来場したお客様にプレゼントしました。自分に出来ることはこの程度のことなので、多少でも体が動く間は草花の手入れや雑草取りを続けてゆきたいと思っております。

## 当会と“からぼり川”に感謝！

小倉 安洋

東大和市の空堀川の近くに転居したのが31年前の5月。その年の夏を迎えて当時の空堀川の酷さ(臭くて汚い川)を実感して、まもなく当会の存在を市内のタウン誌で知り入会しました。多くの先輩方や“からぼり川”から川のこと、ボランティアのあり方などを勉強させて頂きました。その後、平成14年の東大和「空堀川を考える会」発足へと繋がり現在に至ることになります。

現在は、私自身の多数のボランティア活動のため定例会にも顔を出す時間が少なくなりましたが、当会は、私にとって兄貴のような存在でありまた心のよりどころとして今も大きな存在であります。清掃活動や草刈り作業では、東大和は東村山に比べて河川整備が遅れていたこともあり、未着手の状況が長く続いていましたので、当初は当会の活動に参加することで多くを学びました。清掃

作業や真夏の草刈りに共に汗をかき豚汁やお汁粉をおいしく頂いたことが思い出されます。これらの経験が現在の東大和の河川ボランティアの基礎になっていることに間違いありません。昨年からスタートした「東大和・空堀川・川まつり」においても、かつて参加していた5月の“空堀川・川まつり”の経験が役立っておりますし、昨年、友保理事長には最も人気を得た“投網ショー”にご協力頂き、ライフジャケットなど物品提供においても大変お世話になりました。

今までのご支援ご協力に対し心からの感謝を申し上げますと共に、引き続き東大和の兄貴分として、今後ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

結びに、“からぼり川”100号発行とNPO法人の設立20周年をお祝い申し上げますと共に益々の発展を祈念いたします。

## 空堀川の思い出

北出 篤

空堀川に清流を取り戻す会の皆様、がたろう通信100号達成おめでとうございます！

私がこちらの会でお世話になっていたのはずいぶん前のような気がします。

当時は写真をよく撮っていました。タヌキが一番印象に残っています。2003年の秋の夜、なかよし橋の近くの河原の闇がゴソゴソしていました。猫にしては大きい。ピントやストロボを勘でセットして、暗闇に向けてシャッターを切ったらタヌキが写っていました。



河原に降りて、植物の写真を撮っていた時期もありました。会員に植物に詳しい方がいて、後ろについて名前を教えてもらい、ヤブをかき分けるように写真を撮っていました。植物調査冊子としてまとめられたとき写真を使っていたいただきました。

朝の通勤途中に栗木橋から水量を目視して(4段階くらいで)、ホームページ上に記録をつけていたこともありました。渇水期が年3回くらいあるのがよくわかりました。

2002年、会は南台・富士見小土曜子ども講座を支援することになりました。私は講座をコーディネートする担当になりました。ヤゴ救出作戦や、WAKUWAKU広場のあたりで釣りをしたのが印象深いです。当時の小学生がお母さんとなり、その息子が生きもの好きになり、二人で現れた時は、感無量というか感動しました。

最後になりましたが、空堀川に清流を取り戻す会のますますのご発展を祈念いたします

## 空堀川と私

安藤 栄子

私は、空堀川に菜の花が川一面に咲いていた時 小林さんからがたろう会に入らないかと声がかかり、商店会と川一面に菜の花をもっと広め咲かせる事ができました。

青森の横浜町に菜の花祭りがあることを知り、小林様初め、商店会の会長、青葉商店会の皆様三十人位で青森に行ってきました。広い畑に迷路の道を作り素晴らしかったです。その後、横浜町の町長さんも青葉町に来て、商店会菜の花まつりに参加して頂き、楽しんでもらいました。今は、残念ながら菜の花も少なくなり淋しいかぎりです。

昨年、川に降りる階段が出来て、子供が遊んでいる姿も、川に入り楽しそうにしている姿が目に見えます。

私の孫が川に行き、カニ・ザリガニなど取ってきて、今でも家で飼っています。何年前かにザリガニが卵を生み 54 位孵化して、半分は青葉小に持って行き最後の一匹が一年以上生きていました。

その空堀川も、雨上がりには清流を取り戻したようにキラキラと流れ、いつまでも流れ続けてほしいと思いました。

今は、なんの協力も出来ず心苦しく思っています。川祭りに青葉バーバァーズとして踊ることが少しでも協力出来たかと思っています。

本会員の皆様で、公園の草刈り、川のゴミ拾いその他、本当にご苦労さまです。

## 「土曜子ども講座」とのかかわり

平田 和彦

2002年度から、東村山市立富士見小・南台小の児童を対象として「土曜子ども講座」が始まりました。その立ち上げにあたり、当会は空堀川をフィールドにした講座「のぞいてみようーからぼり川」を受け持つことになり、私も学生時代の数年間、参加させていただきました。

「この子たちにとっては、ここがふるさとです。ふるさとをもっと知って、好きになってほしい。」

当時、土曜子ども講座を始められた実行委員長さんから、こんな言葉をかけていただきました。私はそのころ大学生で、地元で活動をしながらNPOのしくみを知りたいと思い、当会に入会したばかりでした。川のこともNPOのことも知らなかった私には難題でしたが、体験を通じて何か一つでも子どもたちの心に残ることがあればいいなと思いながら、会の皆さんと企画をし、1年目は5回、2年目は8回の講座を実施しました。川の源流から終点まで行ってサワガニやヨシノボリを採り、水質調査をしたりするなかで、豊かな自然が身近にあることを私自身実感すると同時に、子どもたちの川に対するイメージがふくらんでいく様子を感じることができました。

2002年度は、小中学校で完全学校週5日制が始まり、全ての土曜日が休みになった年です。ここでは、子どもの「生きる力」を育むため、地域の役割が重要視されるようになっていました。その時期に子どもたちとふれあう機会をいただいたのは、私にとって大きな財産でした。会にとっても、大変ではありながら、子ども、保護者、教師などさまざまな人との交流が、活動の幅を広げるきっかけになったのではないかと思います。その会も20年を迎えました。今後とも空堀川が、そして会自体が、多くの人と自然がふれあう豊かな「場」であってほしいと思います。

## 川と人の関わり

安岡 建依

私が当会に入会したのは平成 14 年 7 月です。当時の空堀川は、まだ日常的に堰で水遊びをする子どもや釣り人が定点で釣りを楽しんでいる程、水量が充分とは言えないまでもありました。

それから 17 年経た現在では、残念ながら状況は厳しいものになっています。改修工事が進むに連れて水量が減少して来た、との実感があります。昭和 47 年に現在の改修工事が決定し、大きな見直しのないまま今日まで来てしまったことが大きな原因と考えています。

その間、当会の一員として、東京都、東村山市に対して提言を行う流域連絡会に参加して水源の確保を探る等の活動をしてきました。そして、その活動は現在も続いています。

「親水」という言葉は、水に川に全身で触れてこそ実感出来る言葉だと思います。実感した豊かな体験が、後々「思い出」となるのではないのでしょうか。川と触れ合う財産を後世に残すことも意義のある事だと考えます。その機会の確保の為に、当会の継続的な活動は価値が生まれるものであると確信しています。

世界的な気象異常が叫ばれ、また大規模な水害の頻度が増している今日、川との友好的な関わりへの理解がなかなか得られない状況になっています。

ましてや、古多摩川の支流であり、歴史的に「空掘り」の名がつく、年知らず（水が新年を迎えない）川である空堀川へ対する理解は得にくいものだと考えます。（もともと水のない川だ。）

しかし、人は川を作り替え、川はその対価として人に恩恵を与えると言う関係性は普遍であると思います。空堀川も例外ではないはずです。

今や、自身の都合で、ほとんど会の活動に参加出来なくなってしまいました。世代を超えて当会の川への働きかけが持続する様、願ってやみません。

## 川との関わり

安岡 雅永

私は小名木川という荒川と隅田川を繋ぐ運河のほとりに生まれ育ちました。海拔0メートル地帯だったので、水害の多い町でした。大雨や台風の際は、堤防は決壊しなくとも排水口やマンホールから水が噴き出し、水が町を覆いました。傘は雨よけではなく、排水口やマンホールに落ちないための杖でした。川の水は汚く異臭を放っていたので、水に浸かることを嫌がったものです。神田川の地下に巨大な貯水施設が出来上がるまで続いた光景でした。

荒川と隅田川の上流河川である空堀川が生活排水路で水質が悪かったのであれば、当然のように、下流である小名木川も異臭を放ち、ゴミだらけの汚いところ。それが「川」でした。

東村山市に嫁いだ時に、夫から「地元の目線から環境のことを考えないか？」と誘われ「NPO 法人空堀川に清流を取り戻す会」に入会しました。入会する前に、夫が空堀川の源流に私を連れて行きました。ポコポコと水紋を作り、土の中から水が湧き出ていました。そして、旅行先でしか見られることのなかった、生命の多様性がそこにはありました。改修工事以前の空堀川の生命の万華鏡が想像に難くないことです。そして、水道の蛇口の一滴の水がどんな旅をしてくるのかを、富山和子さんの「川は生きている」という本を夫から渡され知りました。それが、会の活動の前準備でした。

入会して良かったことは現実的なシビアな課題を知ることができたことと、志を共にする年齢を超えた友人たちに出会えたこと。更に、植樹できたことです。

会報が100号になるとのこと、心よりお慶び申し上げます

## 空堀川とのおつきあい

垂水 荘司

1997年（昭和52年）東京都東村山市青葉町に新居を求め、足立区江北6丁目団地より引越してきました、42年前です。当時東村山といえば「志村 けん」で有名でした。勤務先は都心（銀座）にあり、西武新宿線久米川駅まで自転車を利用していました。少しでも距離が短い方がよいとの事で、知人と丸太を組んだ小さな橋を渡ったのが空堀川でした。何と狭くて汚れた川だな、とっておりましたが大雨のあった時には周囲はすぐ氾濫騒ぎになる小さな川でした。

1962年新河岸川第二次改修開始（柳瀬川、空堀川）等の改修が計画され、2000年代に入り改修工事が始まった。「空堀川に清流を取り戻す会」は、東京都内で一番汚いと言われた空堀川に豊かな清らかな水の流れを取り戻したいという思いから、小林寛治（初代理事長）さんが1996年（平成8年）に立ち上げ、2000（平成12年）にNPO法人格を取得しました。改修工事後の空堀川は、多少の豪雨に耐えられる一級河川として甦りましたが、水涸れが起き、魚も生息困難な状況、当然小鳥たちもえさの無い所には立ち寄りません。これは川底の粘土層が改修工事により削がれた結果です。

川が整備され、遊歩道も整備されました。私も健康維持のため散歩に利用させていただいておりますが、ゴミの始末が出来ておりません。自分なりにゴミ拾いを散歩に組み入れておりますが、毎日は無理です。ある時、空堀川に清流を取り戻す会主催のクリーンアップに自主参加しました。空堀川の自然環境保全に携われれば良い事と判断し、当会に入会しました。かれこれ12、3年経ちますが、まさしく清流を求めて会の行事に積極的に参加しているつもりです。

いずれにしても会員の皆様と折に触れ、コミュニケーションが取れることは精神的に非常によいものと確信しております。

## 学べども追いつかず

岡田 一郎

・・・当会設立者・小林寛治様に巡り会う・・・

「市街地の中央を流れる川面には冬の夜空に輝く満月を映し出していた」が東村山市を定年後の終の住処に決めた最大の理由であると語らい続けて19年が経ちます。かねてから治水対策と水資源開発による成果を優先するあまり、日本中の河川が極度に人工化されて、河川生態系と河川の作り出す景観が犠牲にされていることを憂い、また疑問視しておりました。かつて転勤で20代に駐在勤務した山形では、県民から母なる川と慕われている「最上川」はコンクリート護岸箇所が随所に増えて、「最上川風景」を誇った景観が一変したことで、職業画家はもちろん日曜画家たちをも落胆させました。一方、水量が少ないことでは空堀川と似ている山形市内を南北に流れる馬見ヶ崎川は、水辺の整備等により多くの市民の憩いの場に、また蛍飛び交う環境に変貌して今や毎秋に「馬見ヶ崎川原の日本一のいも煮会」がTVで紹介されるまでになりました。

平成18年12月に中央公民館で開催された「団塊世代シンポジウム あなたの応援歌」のパネルディスカッションのパネリストを担った当会の初代理事長小林寛治様が語った10

年にわたる空堀川に清流を取り戻す会の真摯な活動歴史と将来の構想に深く感銘し、共感を覚えました。暮も押し迫る28日の午後に富士見公民館でお会いし、会の設立からNPO法人化に至る多難かつ詳細な活動を興味深く伺い、その活動趣旨に賛同して即時に入会した往時が思い起されます。参加のお声かけいただく活動全てが未知であり、全てが初挑戦でした。幸いなことに主要な活動を通して基本から多くを学ぶことができましたが、容易には追いつくことができずに爾来15年が経過しました。

この間にかたろう通信「からぼり川」の発行責任者は小林様から正路妙子様、次に安岡建依様に、再び小林様に、そして5代目の発行責任者は友保邦弘理事長に引き継がれて今号発行で記念すべき第100号になりました。また令和2年は奇しくもNPO法人化20周年の記念の年でもあり、二つの節目を迎えることでこれらの記念を最良の形に表すべく、会報「からぼり川」は記念特別号発行委員会を設けて発行概要計画を遂行し、会員皆参加の寄稿と市長の祝意はじめ会の主導的理解者の特別寄稿、20年にわたる当会の歩み、主なる活動一覧は写真入りで構成するなど100号記念誌に相応しい体裁を目指して編集しました。20数年前に献身的に会の設立に奔走され、また高い志と精神性で「からぼり川」創刊号を発刊された初代理事長 小林寛治様の草創期の活動足跡を改めて探り、爾来今日に至る活動の歴史と着実な実績経緯を「からぼり川」や小林様が主導された時代の貴重な資料や高著から紐解く機会に恵まれました。

今般編み出しました100号特別記念号やこの一年にわたり展開する20周年記念活動が次代には深化した形で長く引き継がれることを熱望しております。

## 小彼岸桜に魅せられて

橋本 一郎

二十才の時「三途の川」を渡らずに戻り現世にない綺麗なお花畑を見て忘れられず脳裏に浮び、平成九年四月に高遠町へ桜見物に行き一本の「高遠小彼岸桜」苗木を購入しました。

「小彼岸桜咲き誇る市（まち）を目指して」をスローガンに東村山市内に一千本目標で植栽しようと、桜の増殖法は一般的には接木ですが「さし木」の方法から取りかかり、試行錯誤しながら三年間の歳月を費やし研究を重ね、独自のさし木増殖法を開発しました。同時進行で現「さくら通り」街路樹植栽を計画した市役所の窓口部署に五年がかりで交渉し、平成十五年、十六年、十七年と植栽を続け合わせて百二十本の小彼岸桜を植樹しました。

やがて小彼岸桜の成長とともに各枝が繁茂し剪定の時期が到来しました。そこで新剪定方法「フラッシュカット」を取り入れ、市役所の窓口部署との協働形態で剪定作業を実施し、剪定切り口は五年できれいに塞がりました。その後の街路樹延伸工事は八重桜を交互に植栽し全長1.5Kmにわたる桜並木と成り、市民に親しまれる新名所にもなりました。開花期に遠眺すると「花のトンネル」に見えて、植栽当時の夢が実現できました。会員の皆様も桜並木に自信がつき2千本植樹を目標に、切替さし木育成植栽、巡回剪定と活動内容を広げて、東村山市内の小・中学校、公園、保育園、多摩湖堰堤下都立公園や多摩湖遊歩道などに植樹しました。空堀川馬頭橋の右岸管理通路の植栽計画は友保理事長、会員の水谷達夫さん（現小彼岸桜の会会長）と3人で北多摩北部建設事務所を訪ねて小彼岸桜の特徴を説明し21本の

植栽が決定しました。現在も毎年二月頃に空堀川に清流を取り戻す会と協同で維持管理を行い、立派に成長しております。

その後2千本の植樹目標達成も真近くなり、私も終の住処を求めて鶴ヶ島市に移住を計画し、二年間迷い苦渋の決断をして平成二十八年四月に移り住みました。鶴ヶ島市立運動公園の東側の南北1Kmには小彼岸桜が植樹されており、現在「市民の森」を三ヶ所維持管理している「つるがしまサポートクラブ」に入会して皆様に協力を仰ぎながら小彼岸桜のさし木苗木の育成植栽、「フラッシュカット」の普及、苗木の無料配布等々の活動しております。今までの経験を生かして一千本の植樹目標で県有地、市有地、農大跡地などに令和二年には三年生苗を六十五本、二年生苗を二百本、さし木苗三百本の植栽を計画し、「諦めず」そして「継続は力なり」を信条にして活動しております。

末筆ですが、「がたろう通信100号」発行を祝い申し上げます。

## 私と水

平田 健一

私は、岡山県山陽町（現赤磐市）の父の実家で生まれ、生後3ヶ月で東京に来ました。今までの水や川とのつながりをまとめてみました。

0~5才立川：肥桶を洗う池のウシガエル（外来種）の鳴声にビックリ⇒5~9才下北沢：北沢川はドブ川だった⇒9~11才三鷹：井の頭公園には水が湧いていて、オオカナダモ、ライギョ（外来種）。夏休みは、父の実家裏の仁王堂の池という溜池（備前国分尼寺跡）で毎日魚釣り。フナ、ハヤ、ウナギが釣れて、とても楽しかったです。

これが私の原点です。

仁王堂の池

⇒11~23才石神井：石神井公園は、三宝寺池に水が湧いていて、浮島があった。⇒23~35才広島県：芦田川、太田川の河原で遊ぶ⇒35~39才新座：社宅のすぐ前が野火止用水で、流れが復活。東久留米の南沢湧水で子供を遊ばせる。⇒39~70才東村山：空堀川は、ドブ川→流れの復活→水枯れ 残念です！



井の頭公園の湧き水がわいていた場所



三宝寺池



東久留米 南沢湧水

空堀川の水を取り戻すため63才でこの会に入り、流域連絡会、クリーンアップ、川まつり、ヤゴ救出作戦、水質・水量調査、管理通路への植栽、つり教室などに参加しています。

空堀川を、大雨でもあふれにくい川に、子供たちが遊べる川に、大人も釣りなど楽しめる川にしたいと思います。今の子供たちにも、私が子供の頃のように遊んでもらいたいです。



そのために、雨水浸透ますの普及推進と玉川上水・野火止用水からの引水を提案し、何とかいつも水が流れ、生き物が生息する空堀川を実現したいと思っています。

## がたろう通信 100号発行に寄せて

石井 昭

私が、当会に加入したのは2013年頃でした。60歳を過ぎたばかりの頃でした。その頃、がたろう通信の編集者の方が降りることとなったため、そこで私が引き受けさせて頂きました。活動を始めてみると、川を通して色々なことが見えてきました。

まずは、川にゴミを捨てる人が多いこと。有料のゴミ収集袋に入ったものをわざわざ川に捨てる人、自転車を捨てる人、タイヤを捨てる人、引っ越し荷物と思われる家財を捨てる人。そして、「会が清掃を何日にやります」と看板を出すとゴミが増えることなど。東村山市民の民度がうかがわれてしまうような思いをしてしまいました。川をきれいにすればゴミも捨てにくくなるのではないかとの思いで、毎年清掃活動をしています。効果はいかかなものかと不安な気持ちになるのは私だけではないと思います。私も70歳を過ぎ体力の衰えを感じるこの頃になると、一緒のメンバー達も同様に歳をとっていきますので、東村山を自分の故郷として愛してくれる若年のメンバーを増やさなければならぬと強く思うのです。

そこで、私の提案なのですが小学生・中学生・高校生のメンバーを増やしたいと思うのです。小学生には川に水が有っても無くても沢山遊んでもらいたいと思います。そうすれば、その思いを大事に中高生へと育ててくれるでしょう。中高生には、川の清掃活動を手伝って頂きたいと思います。活動を通して故郷を大事に思うということを考えてもらいたいと思います。高校生には、この「がたろう通信」の発行を手伝って頂きたいと思います。記事を書くだけでなく、写真を集める、イラストを描くなど若い人たちの考えやアイデアを詰め込んでもらいたいと思います。

これらの活動を通して、「自然を大切にすると何か」「故郷を愛すると何か」「自分の思い出を大事にすると何か」などを考えて、立派な東村山市民であり日本人として育てて頂きたいと思うのです。

第44回クリーンアップ



美住町 ユリの木広場 カヌービオトープ



## 空堀川に学ぶ

小池 久雄

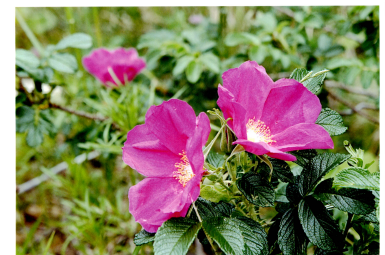
私が東村山にお世話になりました頃の空堀川は、川幅も狭く蛇行していたので少々の雨が降ると水が多く、家の前も水で大変な思いでした。現在は河川工事により、水の流れが良くなり前の様なことは無くなりました。残念なのは、久米川橋から下流は水が無く完全な空堀川になっている事です。

東村山の上流部を散歩していると、川鶉やカワセミが飛来し、魚を取るのを見ることを出来るのはこの川がきれいな証拠であり、ぜひ下流でも見る事ができる様に川の流れを戻したい物ですね。

この会の先輩に誘われて入会したのは最近ですが、先輩方達の環境保全、空堀川に清流をと地域の係わりを大切に思う思いは実に強いものであり、その仲間に入り種々の行事に参加させていただいて多くを学ぶことができ感謝しております。川の清掃、鯉のぼりの掲揚、川まつり、環境保全の仕事、また学校の生徒や子供達と共に空堀川の生き物の観察、メダカの飼育、ヤゴの救出作戦等を経験しつつ学んでおります。

ハマナスの花

特に、春・夏・秋・冬 安全で気持ちよく散歩が楽しめる様、花の植栽もかかせない大事な事です。その季節にあった品種の物や既存の花々の手入れもかかせません。この地に先輩が残したハマナスは貴重な物で、大水が出た時などゴミが絡まり泥塗れになりながらも可憐な花を咲かせる姿には感激します。



皆様のお力を借り、諸々の事を次の世代の方々の為に残して行きたいと手入れをさせていただいております。

## 川は流れる

大橋 隆之

私は、秋津町に昭和40年(1965)年から住んでいる。当時近くにあった空堀川は、生活排水が流れ込み、いつも悪臭がたちこめており、又ひと度大雨が降ると氾濫して土のう積みに駆り出された。

昭和46年8月に都の空堀川改修計画が発表され、下流から順次改修された結果、幅26mのしかし水のない川が出現した。川本来の姿である水が流れていないため、生き物がほとんど生息せず川の役割や潤いもない。

平成9年河川法が改正され、地域に親しめる川づくりのため「流域連絡会」が設置され、空堀川も(柳瀬川と共に)平成11年11月に発足した。私は、水を期待して、平成23年4月から2期4年委員を務めた。会は、流域4市の20数名の民間委員、流域自治体、主催者の都の関係者が出席してほぼ毎月開催された。会では、民間委員のほとんどが水を求める意見や要望、議論をしても、都側は決して具体的な対応をせず、聴く耳を持たなかった。

空堀川とほぼ併走している野火止用水は、昭和48年に都の水需要が旺盛になったことから分水が中止され、その結果どぶ川となった。それから10年後に、鈴木俊一知事の英断で

通水した。このことのように、為政者があらゆる手段を講じて決断すれば「川は流れる」のである。

## 川の楽しさと川への畏怖

小池 一平

川については楽しい思い出ばかりでしたが、川の恐ろしさを伝える事柄が昨今多く、改めて「川」の存在を考えさせられます。

川の楽しさ その1 私の泳ぎの先生でした。田舎の川は阿武隈川の支流で広瀬川と言ひ、小学校入学前から、下流に向かって飛び込むと流れに乗ってスイスイ「泳げた！泳げた！」、上流へ向かうと進まない？「泳げた？」流れに乗っただけ！！それでも河童になった楽しさ！

川の楽しさ その2 高校時代の阿武隈河畔の年に一度の全校健脚大会。一年次は必死で、二年次は力を抜くことを覚える。三年次は殿で悠然と川岸の桜を愛でる楽しさ！

川の楽しさ その3 高校卒業時に歌った高校愛唱歌。「福商青春歌」と言ひ古関裕而（高校の大先輩）作曲《歌詞：春の光のうららかに溶けて流るる阿武隈の～》ああ青春の楽しさ！

川の楽しさ その4 空堀川とお見合いをし、お付き合いをさせていただいて居る「空堀川に清流を取り戻す会」に入会させていただいた楽しさ！

しかし昨今忘れていた「川への畏怖」私に川の楽しさを覚えさせた田舎の広瀬川。今秋の台風で氾濫、川が暴れた。田舎の川ばかりではない。名だたる大河が暴れた。

50年に一度、100年に一度、1000年に一度の治水対策。「川への畏怖」忘れてないか！

私には楽しい川が「かわ」。しかし「川への畏怖」を忘れた、忘れていた自分がある。

川との関りを新たに考えさせられている。

## 会を拠り所として

原田 秀二

田無から東村山へ来たのは、2009年の秋であった。

東日本大震災の翌年、以前から体調を崩していた妻が病院へ行きたいのでタクシーを呼んでと言われ、当地の病院へ急ぐ。二月のみぞれの降る寒い日でした。受付で妻の様子を見た看護師はすぐに車椅子に座らせ、順番を飛ばしすぐに診察して頂き、即入院となった。10日後、ろくに介護も出来ないまま逝ってしまいました。

茫然自失！およそ半年、どの様に過ごしたか…。遺品を見るにつけ涙が止まることはありませんでした。これが鬱症状か!?!と、掛かりつけの医師に萩山駅近くの国立精神・神経医療研究センター病院があるのでここへの紹介状を頂き診察を受ける。精神科医と相談し、なるべく外へ出て、あるいは軽作業などに携わるのも良いのでは、と提案がありシルバー人材センターに登録した。

市立K小学校の用務係に就き、翌年に相棒になったU氏から当会へのお誘いを受け、交友範囲を広げるのも私にとって良い事と思い、また妻の思い出を振り払うため入会いたしました。

川まつりや広苑整備など市民の皆様が楽しんでいる様子や感謝される時など、入会して良かったと思います。特に高尚な理念を持っている訳でもなく、川の知識がある訳でもありませんが、親切に接してくれる先輩や仲間たちに励まされ、会の活動に微力でも貢献できればと思っています。

今は、会員の笑顔やハマナス、アイリスなどの花に癒されています。

## 空堀川とともに

上町 弓子

初めて空堀川のクリーンアップに子どもたちと一緒に参加させていただいたのは、現在小学校5年生の末っ子をまだおんぶひもでおんぶしたりしながらの、8年ほど前になるでしょうか。終わっていただくとん汁が本当に美味しくて！

空堀川の近くに住んでいることもあり、夏場は川の中に入り遊び、川のカモさんや、河津桜の開花をいち早くみんなで見に行ったり…。季節ごとに変わりゆく空堀川とともに子どもたちの成長を感じております。

現在中学3年、中学1年、小5となった3人の子どもたちとともに、またご近所さんと一緒に、クリーンアップに参加したり、鯉のぼりがはためく川まつりなど、たくさんの思い出が空堀川とともにあります。台風の影響や水害など、ときに予想できない怖さをも併せ持つ空堀川に安心と安全へとつなげていけるように、みなさんと一緒にこれからもしていきたいと思っております。



## 空堀川を行く

荒川 昭彦

11月とは思えぬ小春日和の陽気に誘われ、空堀川を東村山市の最上流「上橋」から散策を始めた。水際に生え残る蒲の白穂は、晩秋のもの寂しさを感じさせる。「中橋」の袂の淀みでは、釣り人の姿が目にとまる。「浄水橋」手前の右岸に生える丸葉柳に留まるカワセミを発見。暫くぶりの再会に心が躍る。「第二砂川橋」から「野口橋」へと歩を進めると、近頃では稀なほど多数の鴨たちが群れ集い、小父さんが餌やりに興じている光景に何か微笑ましくなる。

一番の心配は「天王橋」から先の水枯れであるが、何と落差工を滔々と清水が流れ下っている様に驚きもし安心した。「天王橋」から「土橋」にかけて両側の管理通路（遊歩道）は、小綺麗な花壇が造られ其処ここにベンチも置かれ、楽しく散策ができるよう気配りしてくれているようだ。「ふれあい橋」から下流を眺めると、右側には一月前に当会メンバーが整備した「ふれあい広苑」が広がり、河川敷は鮮やかな緑の下草に覆われ、秋の柔らかな陽光に煌めくせせらぎの景観はなかなかのものと言えよう。

歴史的にも由緒ある「御成橋」まで歩を進める。JR 武蔵野線の縦坑排水ポンプでくみ上げた地下水が、御成橋脇の排水口から今日も勢いよく放流されている。これより下流の水確保に多大な寄与をしてくれているようだ。なお排水口の真下に造られたワンドは恰好の魚等の棲息池となっており、当会の主催で子供等や地域住民との交流の場となっている。

さらに右岸を下ると綺麗に整備された「下堀広苑」に出る。やはり当会が整備を請けておるもので、今日は数組の親子連れが広場一杯を使い楽しく遊び戯れている情景を見ると、真夏の大変な作業の苦勞も報われる気持ちになる。

「野行橋」から下流は、今年6月に行った水質調査以来の2回目で、前回は水無川の状態で調査も不可であったが、今日は最後まで川のせせらぎが途絶えることなく幸運に恵まれた。

今回は「上橋」から「大沼田橋」までの約6kmの空堀川の散策であったが、空堀川は今日のような清らかな水流に恵まれれば、整備された遊歩道と各所に広場を持ち、緑豊かな美しい景観、鳥や魚などの水生動物を招き寄せる潜在力を備えており、一級の川になり得るとの思いを強くした。

## サラサラ ガタンゴトン

長谷川 賢司

この頃、空堀川の下堀橋から野行前橋の間にも水が流れ、川辺を歩くと瀬音が聞こえる。心地よくサラサラと。川の音を聞くと何故かホットする。川に水があるのが当たり前のようだが、我が空堀川は時にはサボる。ああ！いつも流れていて欲しい。

そうそう、なぜか最近一人旅をしなくなった。ちょっと年取ったかなと思ってみたりする。鉄道の旅が好きで、あのガタンゴトンがたまらない。あの音はジョイント音と言う。だけど最近あの音が聞こえなくなりつつある。なぜかと言うと、ロングレールの使用とレールの継ぎ目が水平方向ではなく斜めになってきたから。規則正しくリズムを刻んでときには眠りを誘うあの音が聞こえなくなるのは寂しい。時代は変わるのは常なることであろうが、いつまで残って欲しいものってあるよね。近々また鉄道旅に出よう！列車に揺られて何も考えずボーッと車窓を眺める時の至福の時間。あのガタンゴトン。

水辺のサラサラ。サラサラガタンゴトン。サラサラガタンゴトン。

川の会もいつまでも。旅もいつまでも。

## 会報 がたろう通信 特別記念号に寄せて

関岡 幸夫

令和元年もあと僅かの今、会員2年目の私が寄稿するなど「晴天のへきれき」の想いですが、思いのまま綴らせていただきます。

我家の小さな本箱には、まだ直近の「がたろう通信」が5冊しかありません。春夏秋冬それぞれの季節に、ある時は瀬音なき川原のゴミ拾い、またある時は本職顔負けの枝下し、極めつきはモグラと競争のワンドの穴掘り、と体力・気力もへトへトにやっとの思いで我家にたどり着き、がたろう読書の一時は心から幸を感じる時間です。読書の効き目は抜群で疲れなど直ぐに吹き飛んでしまいます。こんなにも効力ある「がたろう通信」を私達の宝物にしているだけでは、はたして良いのでしょうか。もっと広く世間の人々に読んでもらい、空堀川の危うい現状を一人でも多く知っていただくことこそ、私たち会員の責務ではないでしょうか。「がたろう通信・特別記念号」はひとえに、空堀川の存在を世に広く紹介された小林寛治先生はじめ、汗を流され尽くした先輩方の熱き想いの集大成です。

自然環境の破壊、都市災害の多発など、近年都市河川への関心が高くなっています。「がたろう通信・特別記念号」が「空堀川信者」獲得に大きく寄与してくれるものと信じています。この機をチャンスとして会員活動出動に際しては、揃いのジャンパーを着用し、特別記念号を携帯し、ノボリを立てて前進いたしましょう

## 自然に包まれて

小川 恭子

22年間、東村山に住んでいて、初めて2018年の春の第20回空堀川まつりに参加しました。野口橋は、子供たちが八坂小学校に通学するのに毎日渡っていたのに、空堀川の河川敷に降りたのは初めてでした。東京にいながら、自宅の近くにいながら、自然に包まれる感覚を得られました。

父親の仕事の関係で、北海道から九州までの農林省の牧場で育ちました。魚釣りしたりオタマジャクシを育てたり、豊かな自然の中での楽しい時間を思い出しました。

今では、お仲間に入れていただいて、川の勉強会や、川のクリーンアップや、御成橋のワンドのガサガサなどに参加させていただいております。

御成橋の下で子供たちが捕獲したメダカを譲ってもらい、現在、飼育中です。卵から孵った子メダカを毎日眺めています。メダカにも性格があるようです。近くにくるメダカを威嚇する気の強い子、いつも隅にいて水草に隠れるようにしているおとなしい子、のんびりしている子、等々個体を見分けられるようになるかもしれません。

こんなに素敵な自然に触れられる空堀川を、皆さんとともに、大切にしていきたいと思います。

シロメダカの産卵



## ほほえみの情景

高橋 衛

眠れぬ夜、寝酒にグラスを傾けているようなとき、ふと心に浮かんでくる情景がある。それは三年ほど前になるが、フランスのサンジャンピエドポーという町からナポレオンも通ったというピレネーを越え、スペイン北西部の聖地サンティアゴ・デ・コンポステラまでの約800kmをザックひとつで歩いた時のことだ。

とある小さな村の宿で、各国から来た巡礼者達と夕食のテーブルを囲んだ。その中でひとりポツネンとしている若者がいたので、私の隣に招き寄せ話をした。オランダから夏休みで来た18歳の大学生だった。ワインを勧めながら（オランダは18歳から飲酒可の由）江戸時代の日本は鎖国中で、大西洋文化との接点は唯一貴国だけだった等々覚えている限りの英単語とジェスチャーで説明したのだが。

翌日は山越えがあるので、朝食をとらずに早立ちをした。途中一休みしていると、若い男の子三人連れが私たちの前を通り過ぎようとしたとき、その中のひとりが立ち止まり、私に向かって帽子を取りお辞儀をした。少し微笑みながら。何と昨夜の大学生ではないか。「仲間ができたので心配しないで。昨夜はありがとう。」そう言っているように思えた。

あのとときの情景がありありと浮かんで来て、私もつい、ほほえんでしまう。



## 隠岐の島の山と旅

山口 雅晴

去る10月26日から11月9日まで、喜寿男ひとり旅。車中泊で隠岐の島に行ってきました。道中、登山や道の駅・観光を楽しみながら、島根県へ。そして島根半島の七類港よりフェリーで隠岐の島です。荒波の日本海は実に静かで美しい海でした。2時間20分の航海後上陸です。火山活動でできたこの島は、東西17km南北19km、人口15000人の小さな島です。

早速、観光案内所で情報をもらい、翌日この地の最高峰の大満寺山(標高608m)を目指しました。登山コースは3本あるのですが、先の台風の影響でしょうか、2本は通行止め。ぐるりと反対側に回って案内より森の中へ。林道は舗装されており傾斜は緩く、快適なドライブでした。駐車場から登山道へ。歩き易い山腹から尾根道へ、紅葉のはしりが晴天とマッチして美しいですね。森林浴が続いてやがて山頂です。誰もいないここは貸し切りの天国です。南西方向に展望が開けて、島々や海が実に良い景色です。地元の学校が作り上げた重量感たっぷりの方位盤には驚かされました。

登頂の喜びと達成感の余韻を胸に、温泉を目指しました。島で唯一の温泉ですが、独占企業では無く一般の入浴料は500円ですが、65歳以上は300円。老人福祉が進んでいる？温泉であると、すっかり気に入りました。

翌日は、さる神社での村相撲を見物です。学齢前の子供もマワシをつけ女の子も参加。地域対抗・親子対決・5人抜きやポーランドから12人の来客があり6人の力士の出演もありました。昼休み無しで取り組みがあり、素人相撲ながらなかなか見ごたえがありました。

岬からの展望もこの地の産物も楽しみ、3泊の隠岐の島の旅は素晴らしい印象でした。

山口さんが寄贈された桜(天の川という品種) 2019.10.2



# 5. 空堀川に清流を取り戻す会のあゆみ(活動記録)

平田 健一

当会のあゆみを、会報「からぼり川」より、追ってみました。

1996～2003年

分野	活動	活動詳細	1996 H8	1997 H9	1998 H10	1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14	2003 H15	
世の中のうごき			胸ヶ岳噴火、O157食中毒	京都鑑定書、ナホトカ号重油流出、消費税5%	長野オリパラリンピック、明石海峡大橋完成、テボト三陸沖	JCO原子力事故NTT分割	三宅島噴火、有珠山噴火、鳥取西部地震	えひめ丸事故、池田小、米同時多発テロ	小泉首相北朝鮮訪問、東村山路上生活者殺人	イラク戦争、スペースシャトル空中分解、九州集中豪雨、イラク日本外交官殺害	
河川改修	河川改修工事			大沼田橋下いこの水辺、久米川橋下流まで	多摩湖線北上、久米川橋～浄水橋	2/2浄水橋まで新川通水、浄水場前	3月第49調節池完成、浄水橋～馬頭橋、上橋	三郷橋下流魚道、浄水場前の落差工改修、多摩湖線架橋	清水大橋下流、乱杭落差工壊れる	清水大橋、新庚申橋上下流、立野橋	
環境の保全を図る	環境の保全に係わる研究、河川環境の整備・促進→生態系の保全・増進	空堀川のクリーンアップ(上橋～大沼田橋)		第1回4/27 11/16	4/19 11/15	4/18 10/31	4/16,5/24, 11/19	3/17中4/22 11/18	4/21,11/17	4/20,11/16	
		下堀公苑草刈り他								6/11,12,13,7/12,10/15-17	
		日常清掃(第三なかよし広場付近)								トイレ設置	3/15まりあ幼稚園に物置
		空堀川河川区域の植栽の植付け、手入れ		1/28-29アブラナ5/30 コスモス	1/22ナノハナ花ダイコン	7/4ネコヤナギ7/20花 ショウブ,11/27からぼり 広場	11/8からぼり広場、 ゆりの木広場	2/2			3/16ハナミズキ、キ ショウブ、ガマ、ツルヨ シ、ワスレナグサ、ネコ ヤナギ7/15ヨシ、 11/24ハナミズキふれ あい橋,12/26桜
		空堀川の管理通路の植栽・植替え (ツツジなど)			11/7						
		水と緑の市民懇談会(東村山市)	10/9	2/19,4/23,6/21,7/31 0/2,1,11/6,11/29	1/8,2/5,4/24,4/15,4/ 16,9/26,10/1,11/5,2	3/6,4/8,5/13,7/8,9/9, 10/6	2/19,6/8	3/17			
		川づくり市民連絡会		2/25,11/18,11/29	4/23,10/28,11/18	3/5,4/17,16,7/26,9/2 1,10/26	6/8	2/5,3/22			10/16
		柳瀬川流域川づくり懇談会			4/17,10/23						7/7
		柳瀬川流域フォーラム(東京都環境保全局)					3/20	3/12	2/18		
		新河岸川水系連絡会(市民団体)					4/11			7/7	12/16
	新河岸川・柳瀬川流域市民懇談会 参加・意見提出(国交省荒川下流河 川事務所)		2/5	4/17,10/23		3/5,4/17	7/26,10/26	2/5,3/22	4/26,7/7	11/10	
	柳瀬川・空堀川流域連絡会(東京都 北多摩北部建設事務所) 参加・提 案					10/14顔合わせ 11/18	2/8	2/2,2/22, 10/30	4/22,11/25	7/24,11/26	
	自然保護、都市環境の整備、省エネルギー活動	淵の森・八郎山他 他団体主催の地域環境整備への参加 下堀広苑・ふれあい広苑の維持管理 (市委託事業)					第1回		11/15,17,19	10/15-17	6/11-13,7/1-2
	河川敷の維持管理	河川敷草刈り前の立会い	9/22	9/22水ぎわ20cm残す	草刈りのやり方改善			水ぎわ50 ～100cm、 群落残す	10/1水ぎわ1m残す	9/24/9/25	9/29
	ワンド 作り・維持管理	浄水場前、御成橋						浄水場前 ワンド造成			
	自然環境調査	水質・水量調査'身近な川の一斉調査ほか)	12/25結果 報告	9/30,12/9,12/12 久米川橋毎日釣り	5/30,6/26/30野火止 用 水,11/12,13,11/25,26	10/10 11/25-26 11/12-14	2/2,6/21, 6/12東大 和、8月中	6/9,6/20,6/16,7/1水 量,7/8,8/7,8/24,大橋 西11/8-12/20チツツ、 リン	6/24東大和 ～合流 点,7/8,9	4/26武蔵野線新秋 津,6/8	
		大雨・洪水	9/22 1日 171mm,27 mm/時	6/7 127mm,23mm/時	8/28 224mm,41mm/時	8/14 225mm,36mm/時 浄水橋水没寸前、から ぼり広場1/3浸水	9/15 153mm,35 mm/時 都営住宅 から 1000t/日 汚水排出	8/11 42mm,32mm/時	8/19 148mm,36 mm/時	8/5 66mm,27mm/時	
		水がれ					10/10栗木橋～野塩橋 干上がる	8月末～9 月干上がる	12/24大沼田橋～野塩 橋干上がる12/21北北 建要請	春:野行前 橋～三郷 橋干上がる	栗木橋で年間62日、第 二天王橋～柳原橋干 上がる
		河川敷の植生調査(上橋～大沼田橋)		6/8,9/30							キショウブ、ガマ、ツル ヨシ、ワスレナグサ、ネ コヤナギ
		生き物調査(水生生物・鳥ほか)	5月-	4月、 7/19,9/24,10/20,11/9 ,11/20,12/9	2/11、3/13源流部、 5/10,12/6	2/2-4 3/4フナモツゴ放流,8 月メダカ放流 9/13-14魚、8/27久保 の川					源流～合流点
魚、水生生物			6/8コイ、ギンナド、 ドジョウ、ヨシノボリ、グッ ビー、サカマキガイ、ヒ ル	モツゴ、オイカワ、ヤ ゴ、ヒル、サカマキガ イ、ユスリカ、イトミミズ	1/9-10魚大量死、 11/8魚救出、3/4フク チボリ放流、4/4れあい 橋～なかよし橋 8/28コイ、ザリガニ、ド ジョウ、ヒル、サカマキ ガイ、サホコカゲロウ	ヤゴ、フ ナ、ドジョ ウ、モツ ゴ、ヘダ カ、グッ ビー、ヨ コエビ、ア メリカザリ ガニ		9/6アユ	サワガニ、ヨシノボリ、 モツゴ、ドジョウ、コイ、 オイカワ、カワムツ、メ ダカ、ヌマエビ、フナ、ア ユ、アメリカザリガニ、ミ シシッピアカミミガメ、ヌ マエビ、		
鳥、その他			11/6,13サギ、ゴイサ ギ、カルガモ、ヒドリガ モ、カワセミ	コサギ、カワセミ、カル ガモ、コガモ		7月タヌキ 8月トンボ ヤマカガシ		カワセミ、タヌキ、ヤマ カガシ?			
見学ほか			9/3東村山浄水場、 9/18多摩川上流下水 処理場、12/9源流部	2/7水環境シンポジウ ム12/8多摩川上流下 水処理場	10/16森永乳業	1/29森永 乳業		3/11清水 大橋下流			

詳細にご覧になりたい方は、会のホームページ <https://www.karaborigawa2.org/> に pdf を載せますので、そちらをご覧ください。



分野	活動	活動詳細	1996 H8	1997 H9	1998 H10	1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14	2003 H15	
	世の中のごき		駒ヶ岳噴火、O157食中毒	京都議定書、ナトカ号重油流出、消費税5%	長野オリパラリンピック、明石海峡大橋完成、テポドン三陸沖	JCO原子力事故 NTT分割	三宅島噴火、有珠山噴火、鳥取西部地震	えひめ丸事故、池田小、米同時多発テロ	小泉首相北朝鮮訪問、東村山路上生活者殺人	イラク戦争、スペースシャトル空中分解、九州集中豪雨、イラク日本外交官殺害	
河川改修	河川改修工事			大沼田橋下いこの水辺、久米川橋下流まで	多摩湖線北上流、久米川橋～浄水橋	2/2浄水橋まで新川通水、浄水場前	3月第49調節池完成、浄水橋～馬頭橋、上橋	三郷橋下流魚道、浄水場前の落差工改修、多摩湖線架橋	清水大橋下流、乱杭落差工壊れる	清水大橋、新庚申橋上下流、立野橋	
街づくりの推進	河川環境の整備と川を通じて人が集まり行き交うことによる流域・商店街の活性化	空堀川・川まつり				第1回通水まつり 5/30	第2回川まつり 5/28	第3回5/27	第4回5/26	第5回5/25	
		鯉のぼり掲揚			○	○	○	○	○	○	
		新河岸川水系の河川の川まつり見学		8/3北川川まつり	5/24新河岸川流域						
		第49池調節池跡 計画への提案	1/23,1/30								
		上堀橋～久米川橋 旧川の改善提案 請願・陳情・署名									6/6請願11/27採択
子供の健全育成	川遊びなどで環境教育活動に寄与	子どもの水辺 協議会									
		子どもの水辺 維持管理作業				8/28外国人むけ					
		子どもの水辺 体験学習イベント									
		小・中学校の総合学習 支援				11/8	7/2美住幼稚園、7・6多摩みどり 9/13-14富士見小 10/11大袋小・11/8廻田小	3/9,6/13,6/18八坂小,6/27大袋小,7/2久米川東小,9/17,9/26野火止小,10/17,11/2,	3/7三中,6/20六中,7/3,6/7,9/7,11,9/19,7/9/21青梅四小,10/12,11/2	10/3,	
		土曜こども講座 支援						6/3みどりの楽校	9/7,9/14,9/21,10/1,2,11/2	5/17,6/7,6/21南台小ヤゴ救出,7/19,9/6,9/27,10/18源流,10/25,11/1	
	川での「がさがさ」						6/11水質 三中	3/10三中 6/10一中 野火止水 7/7水量調査 三中	6/9三中	6/8三中	
社会教育の推進	環境保全・環境教育活動に関する出版物の出版・販売・広報	がたろう通信「からぼり川」の発行発行日		1/6,3/6,5/8,7/9,9/11,1,	1/8,3/6,5/6,7,8,9,9/11,1	1/12,3/3,5/20,7/31,9/10,	1/10,3/15,6/1,7/10,9/20,11/27	1/15,3/15,5/25,7/25,9/28,12/5	1/15,3/25,5/25,8/28,12/25	4/5,7/25,11/5	
		空堀川の歴史調査	5月-9/30		8/5,9/11第3.5水曜日	1/4,2/4,2/11,7/30,					
		市民文化祭など 参加		3/29子供シンポジウム 11/2-4文化祭	2/7水環境シンポジウム、11/1-3文化祭	9/18-19新河岸川流域フェア、10/5-7文化祭	3/5	4/29緑の祭典	9～10月東大和「空堀川を考える」		
		講演会、シンポジウム、公開講座(主催)		9/20川の生態系				2/23藤田先生	1/26水辺の体験学習発表会、9～10月東大和「空堀川を考える」		
		出版物の出版(個人出版も含む)				3/1誰も知らない川の歴史と現状		4/7よみがえれ生き物たち		PRビデオ	
		HP、ブログによる情報発信								○	○
法人化	環境保護団体としての申請・登録	10/28登録申請	1/24登録		9/24NPO申請受理	2/1NPO登記	NPO	NPO,12月東大和空堀川を考える会発足	NPO		
会長、理事長		小林寛治	小林寛治	小林寛治	小林寛治	小林寛治	小林寛治	小林寛治	小林寛治		
がたろう通信	号数		1-6	7-12	13-18	19-24	25-30	31-35	36-38		
受賞					6/3都環境功労賞			8/22コカ・コーラ環境教育賞			
助成金				日本財団			日本財団	リハーフロント	内野吉之助基金		
定期会議	総会			4/11	5/8	6/10	6/9	6/22	5/10,7/4		
	理事会					2/12,3/11,4/8,8/12	8/12	6/8	2/28,5/20,7/4,		
	定例会	原則 毎月第二土曜日 10-12	○	○	○	○	○	○	○		

2004～2011年

分野	活動	今年度の活動	2004 H16	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	備考
世の中のごき			新潟県中越地震、鳥インフルエンザ、道庁公園民営化、インド洋大津波	愛知万博、福知山線事故、カトリナ、道庁公園民営化	ライブドア事件、北朝鮮核実験	熊襲半島地震、中越沖地震、自民党大敗北、郵政民営化	リーマンショック、四川大地震	民主党政権、オバマ大統領就任	はやぶさ帰還、ハイチ大地震	3.11東日本大震災	
河川改修	河川改修工事	2月から梅坂橋親水階段、東大和河川改修、12月浄水場擁壁工事を完了	東大和河川改修	柳瀬川・空堀川合流点川づくり懇談会、東大和河川改修	馬頭橋～中橋工事終了、浄水場前フェンス完成、東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	
環境の保全を 図る	環境の保全に係わる研究、河川環境の整備・促進→生態系の保全・増進	空堀川のクリーンアップ(上橋～大沼田橋)	4/4中止 11/21	二会場に分ける 4/17 11/20	4/23,11/19	4/15,11/18	4/20,11/22,12/22	4/19,11/15,12/24-25	2/25,4/18,11/21	2/24,24/11/26	原則4月、11月第3土曜日ほか
	日常清掃(第三なかとし広場付近)	4月～									
	空堀川河川区域の植栽の補付け、手入れ	1/16,11/21彼岸花、12/18菜の花	2/13ふれあい公苑ドウダンツツジ、サツキ、6/19,10/23オオムラサキツツジ10/27	1/25,4/29シヨウブ、カワヤナギ、6/7彼岸花8/7、	1/28ユリノキ、5/21からぼり広場除草、東大和河津桜、エノキ、トチノキ	12/22わくわく広場ツルヨシ	3/20ハマナス天玉橋より浄水場まえに移植、3/22彼岸花	2/16ふれあい広苑ドウダンツツジ2/21清水富士見緑地クスギ			
	空堀川の管理通路の植栽・植替え(ツツジなど)	桜の植樹覚書 1/16ソメイヨシノ	桜の植樹覚書 ソメイヨシノ	桜の植樹覚書 ソメイヨシノ、カワヤナギ	3月馬頭橋 小彼岸桜、河津桜36本植栽	ツルヨシ	3/20ソメイヨシノ、ツツジ	2/28シダレザクラ、3/25小彼岸桜28本、10/29防犯協会	2/24-25オオムラサキ2/27子彼岸桜6/16	内野吉之助 緑の基金など	
	水と緑の市民懇談会(東村山市)	3/29,4/19,9/4,11/29,12/10	2/8	1/24,9/1		10/17					
	川づくり市民懇談会	11/30	10/23	7/18,7/9/13							
	柳瀬川流域フォーラム(東京都環境保全局)		8/27					11/14観察会、発表			
	柳瀬川流域ネットワーク	4/23,11/30	1/28,8/27								
	柳瀬川流域シンポジウム		3/26								
	新河岸川水系連絡会(市民団体)		1/28	6/16							
	新河岸川流域フォーラム		8/27								
	新河岸川・柳瀬川流域市民懇談会 参加・意見提出	7/11,10/16見学会、11/5	3月新河岸川マスタープラン、10/29	1/28見学会、1/30,8/7		6/19,11/26	3/30アクションプラン完成、11/14				国土交通省荒川下流河川事務所
	柳瀬川・空堀川流域連絡会 参加・提案	流量確保分科会 1/23,2/9,7/10,11/5,12/7	3/28	1/25,3/27,4/28,5/17,6/30分科会提案、9/6			9/10,10/15,10/23分、11/12,11/20分、12/17散策マップ	3/20植樹			東京都北多摩北部建設事務所
	自然保護、都市環境の整備、省エネルギー活動	酒の森・八郎山他 他団体主催の地域環境整備への参加					八郎山 6/22,11/9	八郎山11/27	八郎山 1/24,12/3	八郎山 1/21,5/13,10/26湖の森植物調査12/9	
	下堀広苑・ふれあい広苑の維持管理(市委託事業)		○	8/16-17,10/11-14	7/15,18,8/11,12,14,10/1,3,16-18	5/14-16,8/13-14,10/15-17	5/12-14,10/15-17	4/30,5/1,7,7/29-30,10/19-21	5/11-13,7/20,11/18-19	5/16-18,10/18-21	
	河川敷の維持管理	河川敷草刈り前の立会い	7/13,8/10		10/22	7/4,11	7/4,7/17-18	水際1m残す8/3	7/12	7/20	河川敷手入れのための調査
	ワンド 作り・維持管理	浄水場前、御成橋					3月浄水場前新ワンド造成		3/3		
	水質・水量調査(身近な川の一斉調査ほか)		6/6	6/5,8/29-30,9/10御成橋JIR流出状況	6/4,10/22ワクワク広場	不明	6/8,10/18流量	6/27,4/11,19,12/12	2/13,3/15,4/15,5/12,9/28JIR武蔵野緑立坑	6/5	世界環境デー、6月第1日曜日 身近な川の一斉調査(○)
	大雨・洪水	10/9 1日 167mm,24mm/h	8/16 26mm,25mm/h		12/26 135mm,15mm/h	7/29 66mm,61mm/h	8/29 104mm,32.5mm/h	10/8 98.5mm,31mm/h	6/29 82.5mm,64mm/h 7/5 7/5 104mm,67.5mm/h 8/18 69mm,67.5mm/h	6/2 82.5mm,64mm/h 赤年は、50mm/h 時を超えた時	気象庁 所沢のデー930mm以上
	水枯れ			5/4ふれあい橋干上が る11/27コイ、フナ、オイカワ救出	9月野口橋水あり				7/27梅原橋に汚水、9/3久米川橋で魚救出		
河川敷の植生調査(上橋～大沼田橋)						7/17,18 332種	10～11月		10/26湖の森		
生き物調査(水生生物・鳥ほか)			9/17	11/27ワクワク広場三中			7/4,7/25,10/29	6/15,9/3魚救出	7/6-7		
放射線量の調査									11/9東大和市内		
植物	カラシナ、クレソン				オオキンケイギク、カラワケツメ	セイバン、モロコシ、オギ、ヨシ、	ネジバナ、イタドリ、アカザ、モミジ、10/18メハジキ、ヨシ、ヨシ、ススキ、ツルヨシ	カワツサクラ、ハマナ、6月クワの実、オオクサ、オオクサ、ヤハススキ、	セリ、クレソン、フトイ、ガマ、カワツサクラ、オオクサ、オオクサ、ヤハススキ、		
魚、水生生物	野塩橋ブラックバス、カエル			オイカワ、ドジョウ、ヨシノボリ、ザリガニ、コイ、		オイカワ、コイ、ヒメダカ、メダカ	3/18カエル卵新ワンド	3/3ヒキガエル、7カエル、ウシガエル、ウシガエル、ツチガエル	コイ、オイカワ		
鳥、その他				カルガモ、コサギ、アオサギ、カワセミ	サナエトビ、アキアホ、キタテハ、アカサテハ、イチモンジセリ、モンキチョウ、アブ	モンキチョウ、アブ、10/7アキアホ、トシヤマバシラ、キタテハ、アカサテハ	カワセミ、キタテハ、アカサテハ、イチモンジセリ、10/18イナゴ、アメンボ、サカマキガイ	ショウリョウバッタ、	アオサギ、ゴイサギ		
見学ほか								10/21野川見学			

分野	活動	今年度の活動	2004 H18	2005 H17	2006 H18	2007 H19	2008 H20	2009 H21	2010 H22	2011 H23	備考	
	世の中のおごき		新潟県中越地震、鳥インフルエンザ、道庁公団民営化、インド洋大津波	愛知万博、福知山線事故、カトリック、道隆公団民営化	ライプツォン事件、北朝鮮核実験	熊倉半島地震、中越沖地震、自民党大敗北、郵政民営化	リーマンショック、四川大地震	民主党政権、オバマ大統領就任	はやぶさ帰還、ハイチ大地震	3.11東日本大震災		
河川改修	河川改修工事		2月から梅坂橋親水階段、12月浄水場擁壁工事完了		柳瀬川・空堀川合流点川づくり懇談会	浄水場前ワンド完成、3月中旬橋まで完了						
街づくりの増進	河川環境の整備と川を通じて人が集まり行き交うことによる流域・商店街の活性化	空堀川・川まつり	第6回 5/30	三会場 5/29	5/28	5/27	5/25中止	5/31	5/30	9/11東日本大震災で9月に	5月最終日曜日	
		鯉のぼり掲揚	4/24	4/29	4/29	5/2	4/29	4/29	4/24,5/26	4/29,5/4		
		新河岸川水系の河川の川まつり見学								清瀬かたくり祭り		清瀬・東久留米・志木等
		第49調節池跡 計画への提案	1/23,2/12,4/24~10/23 4回									
		請願・陳情・署名		請願		請願				市民アンケート調査8/2,26		
子供の健全育成	川遊びなどで環境教育活動に寄与	子どもの水辺 協議会	2/24子供の水辺東京会議、11/25登録	2/14準備会	7/30				2/13立ち上げ	2/15		
		子どもの水辺 維持管理作業		4月~	7/7堆肥置き場、10月ユリノキ広場物置	5/21からほり広場除草、6/18-19堆肥切り、6/23-27,7/5-6,7/7堆肥置き	2/11,3月堆肥9/15堆肥切り返し、10/3-7、	H21-25管理契約6/14除草		6/16防犯協会、八坂小7/28草刈り、11/17花壇		
		子どもの水辺 体験学習イベント		9/17	7/16,7/30、	10/13、	10/13、			7/17青年会議所、		
		小・中・高等学校の総合学習 支援			6/1富士見小、	7/9,19東村山西高			6/23,25 7/8八坂小ガサガサ	八坂小1/20補植、6/16,7/6-7歴史・生き物、9/8ゴミ清掃、11/17花壇、2/24-25 3/3-4大袋小オオムラサキツツジ、6/3富士見小ヤゴ	市内小学校と協働。植栽、ヤゴ救出作戦、河川清掃、生き物調査、ガサガサ	
		土曜こども講座 支援	7/13,7/17,7/24,9/18,9/25,10/16水質調査	5/26,6/4,6/25,7/2,7/16,9/17,9/24	6/3南台小	10/13豊島区エコクラブ				5/29南台小ヤゴ、10/16花壇作り	5/28南台小ヤゴ、10/15富士見小釣り	市内小学校PTAと協働
		川での「がさがさ」							6/23,25,7/8			
		小中高等学校の部活動 支援(水質調査、ワンドかいぼり、源流探索等)	6/6三中	6/5三中								
社会教育の推進	環境保全・環境教育活動に関する出版物の出版・販売	がたろう通信「からぼり川」の発行 発行日	2/4,5/20,1/30	2/21,5/19,7/30,10/15	1/20,4/20,7/15,10/30	2/8,5/25,8/30	5/20,8/10,10/31,12/30	2/10,4/15,6/26,10/2,12/20	3/13,6/12,9/11,12/11	3/12,6/11,9/10,12/10	現在は、原則 年4回発行	
		空堀川の歴史調査									7/2空堀川の歴史と変遷	
		市民文化祭など 参加	4/29緑の祭典		2/25川でつながる発表会、三中・明法中発表					空堀川を考える市民の会(東大和)		
		シンポジウム、公開講座(主催)	2/14清流復活を考える勉強会			4/28 10周年記念公開シンポジウム			2/14廃棄物を考える勉強会		7/12空堀川の歴史と変遷11/26いい川づくりといひ街づくり	
		出版物の出版(個人出版も含む)	改修河川一ゼロからの出版(神山)									絵葉書
		HP、ブログによる情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○		
法人化		環境保護団体としての申請・登録	NPO	NPO	NPO	NPO	NPO	NPO	NPO	NPO		
会長、理事長		がたろう通信	小林寛治	小林寛治	小林寛治	小林寛治	小林寛治	友保邦弘	友保邦弘	友保邦弘		
		号数	39-41	42-45	46-49	50-52	53-56	57-61	62-65	66-69		
受賞			1/25なごやまち・コミ映画祭					7/29東京河川ボランティア				
助成金				セブンイレブンの基金	河川整備基金	河川整備基金		河川環境整備財団				
定期会議	総会		5/29	5/21	6/23	5/20	5/10	5/9	5/8	5/14,8/2	地域福祉センター	
	理事会			4/7,7/21、	3/23,6/14、	5/15,10/2,6,12/13,12/28	4/28,9/6,11/8、	3/7	3/30、			
	定例会	原則 毎月第二土曜日 10-12	○	○	○	○	○	○	○	○	地域福祉センター	

2012～2019年

分野	活動	活動の詳細	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31,R1	備考	
世の中のごき			東京スカイツリー完成	東京オリパラリンピック決定	御嶽山噴火	集団的自衛権	熊本地震	トランプ大統領就任	米朝首脳会談、西日本豪雨	新元号令和、天皇即位、COP25		
河川改修	河川改修工事	3月からぼり広場、改修、東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修、緑化整備工事(その1)	東大和河川改修、緑化整備工事(その2)	東大和河川改修、緑化整備工事(その3)御成橋親水階段・広場	東大和河川改修、緑化整備工事(その4)		
環境の保全に係わる研究、河川環境の整備、促進一生態系の保全・増進	空堀川のクリーンアップ(上橋～大沼田橋)		4/28,11/17	4/20,11/7,12/29	4/26,7/26,11/15,12/10,12/28	4/18,10/8,11/12,11/21,12/29	4/11,4/16,11/20,12/23	4/15,11/20に順延	4/21,11/16,17,12/23	4/13,20,11/17,12/23	原則4月、11月第3土曜日ほか	
	日常清掃(第三なかよし広場)		○	○	○	○	○	○	○	○	美住町	
	空堀川河川区域の植栽の補付け、手入れ	1/2、3/26小彼岸桜せん定		2/13小彼岸桜せん定、10/15-17	2/22小彼岸桜3/13ツツジ3/18ユリノキ	2/28小彼岸桜3/18	12/12なかよし広場四ツ目垣	2/25小彼岸桜		2/27小彼岸桜手入れ、5/25,6/15	小彼岸桜・河津桜、ソメイヨシノ、ツツジなど	
	空堀川の管理通路の植栽・植替え(ツツジなど)					10/28ナギナタガヤ 11/29 ジャーマンアイリス	6/17～16久米川町				内野吉之助 緑の基金など	
	水と緑の市民懇談会(東村山市)											
	川づくり市民懇談会					1/29						
	空堀川市民懇談会(東大和)		9/30-2013/3 4回									
	柳瀬川流域フォーラム(東京都環境保全局)											
	柳瀬川流域ネットワーク					4/3						
	新河岸川水系連絡会(市民団体)		1/29	1/29		4/3,5/15	9/27					
	新河岸川・柳瀬川流域市民懇談会 参加・意見提出(国文省荒川下流河川事務所)										国土交通省荒川下流河川事務所	
	柳瀬川・空堀川流域連絡会(東京都北多摩北部建設事務所) 参加・提案		○	2/5,3/5,12/4	3/5,8/5,9/17,10/8,11/19,12/10	2/27,3/5,9/30	3/3,7/8,11/9	2/20,5/29,9/11,11/20	2/26/26,8/24,12/19	2/13,8/8	東京都北多摩北部建設事務所	
	自然保護、都市環境の整備、省エネルギー活動	淵の森・八郎山他 他団体主催の地域環境整備への参加		八郎山6/29	八郎山10/17	八郎山3/29		1/17宅部池かいぼり				
	下堀広苑・ふれあい広苑の維持管理(市委託事業)		6/4,5,7,8,8/8,9,10/15-18	6/3-7,8/9-10,10/28-31	6/2-4,7月8/19,23,29,10/27-30	6/1-5,8/5-8,10/5-8	6/6-9,8/18,24,10/11-14	6/12-16,8/26,9/14,10/10-12	6/8,9,15,16,17	6/5,8/17,19,10/15		市から受託
	河川敷の維持管理	河川敷草刈り前の立会い		7/23	6/3	2/19,5/28,5/31	6/19	7/1	6/22	6/25、睡橋～なかよし橋間の樹木伐採・抜根	なかよし橋～御伊勢橋伐採・抜根	河川敷手入れのための調査
	ランド作り・維持管理	浄水場前、御成橋		6/27-29御成橋ランド造成		3/15浄水場前、10/8御成橋		4/1浄水場、9/9御成橋	4/7,8/26御成橋	4/3浄水場一中、三中	8/25御成橋	
	環境の保全を図る	水質・水量調査'身近な川の一斉調査'ほか		6/9	6/2	3/21源流調査6/9	6/7	a	6/5	2/21源流調査、6/2	6/2	世界環境デー、6月第1日曜日'身近な川の一斉調査'( )
		大雨・洪水		9/2 1日 58.5mm,31.5mm/時	7/23 36mm,36mm/時	6/29 1日 46mm,30mm/時	7/16 1日 166mm,25.5mm/時	台風9号による大雨 8/22 1日 208mm,76.5mm/時	7/22 1日 42mm,41.5mm/時	台風21号による大雨 9/1 1日 56mm,39.5mm/時	8/19 1日 77.5mm,45.5mm/時 8/20 27.5mm,45mm/時 台風19号10/12 342mm,51mm/時 10月626.5mm 11月120mm	気象庁 所沢のデー々30mm時以上 赤字は、50mm/時を超えた時
		水枯れ		4/24久米川橋で釣りができた。						浄水場から下流は水なし、雨の降った後、2～3日水が流れる。		1～8月浄水場から下流水無し、9～12月全線流れる
		河川敷の植生調査										上橋～大沼田橋
生き物調査(水生生物・鳥ほか)								7/22,8/26,9/30	2/21多摩六都5/27浄水橋ランド	5/26浄水橋ランド		
放射線量の調査				4/19,20,5/24	3/21,4/19,5/16	11/17	4/12,5/18,11/18	4/13,5/27,11/16	4/19,11/13	4/16,5/24		
植物			オギ、ヨシ、スキ、ヨモギ、カワラケツメイ、ガガイモ、カラスウリ、センニンソウ、セイバンモロコシ、セイタカアワダチソウ、オオブタクサ		カワラケツメイ、フジバカマ、ヒツツバハギ、イヌビロ、キカラスウリ、スズメウリ、ゲンノショウコ、カラスノゴマ、カントウタンポポ、カワヂシャ、ヒメウス、							
魚、水生生物			コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、ヌマエビ	コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、ヌマエビ	コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、メダカ、ヌマエビ、スッポン、ヒキガエル、アメリカザリガニ、ミシシッピアカミミガメ	コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、ヌマエビ	コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、メダカ	コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、メダカ	コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、メダカ、スズエビ、ヤゴ(シオカラ、ヤンマ)、ウシガエル(脚)、アリアケギバチ	コイ、フナ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、メダカ、ヌマエビ、アリアケギバチ		
鳥、その他			2/12みどりの薬校野鳥観察会、カルガモ、コサギ、ダイサギ、コガモ、カワウ、カワセミ	カルガモ、コサギ、カワウ、カワセミ	カルガモ、コサギ、カワウ、カワセミ	カルガモ、コサギ、カワウ、カワセミ	カルガモ、コサギ、カワウ、カワセミ	カルガモ、コサギ、カワウ、カワセミ	カルガモ、コサギ、カワウ、カワセミ	カルガモ、コサギ、カワウ、カワセミ		
見学			2/21森永乳業、8/6清瀬水再生センター					9/4森永乳業、10/20空堀川見学会	9/27森永乳業、9/28ホテルの里	9/26森永乳業、10/26白子川源流まつり	3/27柳瀬川合流点、9/18森永乳業	

分野	活動	活動の詳細	2012 H24	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31,R1	備考	
世の中のおごき			東京スカイツリー完成	東京オリ・パラリンピック決定	御嶽山噴火	集団的自衛権	熊本地震	トランプ大統領就任	米朝首脳会談	新元号令和、天皇即位		
河川改修	河川改修工事		東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	東大和河川改修	旧川新川切り替え?	
街づくりの増進	河川環境の整備と川を通じて人が集まり行き交うことによる流域・商店街の活性化	空堀川・川まつり	第14回5/27	5/26	5/25	5/31	5/22	5/28	第20回5/27	5/26	5月最終日曜日	
		鯉のぼり掲揚	4/28,5/20	4/27,5/24	4/26,5/2	4/26	4/27-5/9	4/28~5/5,5/2	4/28,5/26	4/27,5/25		
		新河岸川水系の河川の川まつり見学		清瀬かたくり祭り								東村山・清瀬・東久留米・志木等
		上堀橋〜久米川橋 旧川の改善提案										未実施
		請願・陳情・署名			8/15陳情提出12/18採択12/18北北建署名提出	1/19署名知事あて提出						
子供の健全育成	川遊びなどで環境教育活動に寄与	子どもの水辺 協議会	第3回7/11									
		子どもの水辺 維持管理作業	8/6生け垣,11/28ユリノキ広場倉庫修理		3/8生け垣		9/10堆肥置場 12/10生垣		6/16堆肥置場,9/19,12/21ユリノキ広場	9/4,5,9/19ハマナス		
		子どもの水辺 体験学習イベント									7/23富士見子どもサロン(ガサガサ)	
		小・中学校の総合学習 支援	八坂小3/8ゴミ拾い5/31ヤゴ,9/20花壇,11/1ゴミ拾い 11/13大袋小	1/24大袋小ツツジ	5/22南台小ヤゴ,	3/13大袋小ツツジ 5/24,29南台小ヤゴ 6/3中学校理科職員	6/1南台小ヤゴ	6/1南台小ヤゴ	5/29南台小ヤゴ 9/2ヤゴイカダ設置	5/28南台小ヤゴ	市内小学校と協働。植栽、ヤゴ救出作戦、河川清掃、生き物調査、ガサガサ	
		土曜子ども講座 支援		5/25南台小ヤゴ	10/18魚釣り						市内小学校PTAと協働	
		川での「がさがさ」						5/28川まつり	5/27川まつり	5/26川まつり、7/21富士見サロン		
		小中高等学校の部活動 支援(ワンドかいほり、源流探索等)			3/15三中		4/1三中	4.7三中	4/3三中			
法人化	東京都に環境保護団体として申請・登録	がたろう通信 号数	70-72	73-76	77-79	80-83	84-87	88-91	92-95	96-99		
		がたろう通信「からぼり川」の発行 発行日	3/10,6/9,10/13	1/12,4/13,7/13,12/14	4/10,7/12,10/14	1/23,4/11,7/11,10/10	1/23,4/9/9,10/8	1/14,4/22,7/8,10/21	1/13,4/28,7/28,10/20	1/19,4/27,7/13,10/12	現在は、原則 年4回発行	
		空堀川の歴史調査										
		市民文化祭・環境フェアなど参加		2/10川でつながる発表会(大泉南小)3/30東大和川づくり意見交換会					1/23-28環境フェア、12/18-23環境フェア	11/12-17環境フェア 12/21川でつながる発表会		
		シンポジウム、公開講座(主催)			7/12意見交換会	5/25茅ヶ崎市見学会	9/27第1回公開勉強会	4/8,11/11公開勉強会	4/14,10/14公開勉強会			
		出版物の出版(個人出版も含む)				空堀川の輝きフォトブック						
	HP、ブログによる情報発信	○	○	○	○	○	○	○	○	新HP		
会長、理事長受賞		友保邦弘	友保邦弘	友保邦弘	友保邦弘	友保邦弘	友保邦弘	友保邦弘	友保邦弘	友保邦弘		
助成金		東京都公園協会	東京都公園協会	東京都公園協会	東京都公園協会	東京都公園協会	東京都公園協会	東京都公園協会	東京都公園協会	東京都公園協会		
定期会議	総会		5/12	5/18	5/10	5/16	5/14	5/13	5/12	5/11	地域福祉センター	
	理事会			5/5,6/20	2/23,4/12,11/8	4/11	5/14	3/19	7/14			
	定例会	原則 毎月第二土曜日 10-12	○	○	○	○	○	○	○	○	地域福祉センター	

## 主な1年間の会の活動

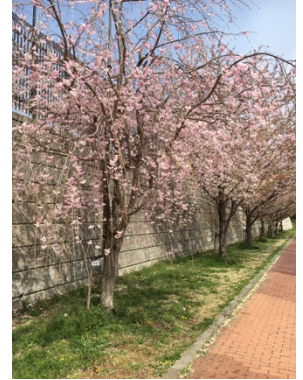
2月下旬 小彼岸桜の手入れ  
美住町 馬頭橋下流



3月5日ころ 河津桜  
富士見町 中橋～馬頭橋



4月ソメイヨシノ、枝垂れ桜  
美住町 馬頭橋～浄水橋



4月、11月第3土曜日 春秋のクリーンアップ  
(東村山市内 約6km)



4月 浄水場前ワンド生き物調査



5月鯉のぼり掲揚 美住町 からぼり広場



5月最終日曜日 川まつり カヌー教室



6月初め ヤゴ救出作戦(総合学習支援)



6月第一日曜日 水質調査  
(上橋～大沼田橋)



7月 ガサガサ(魚捕り) 美住町



8月 御成橋ワンド 生き物調査 恩多町



9月ヤゴ筏(ヤンマトンボの産卵用)



土曜こども講座 つり教室



6月、8月、10月下堀公苑他のせん定・草刈り



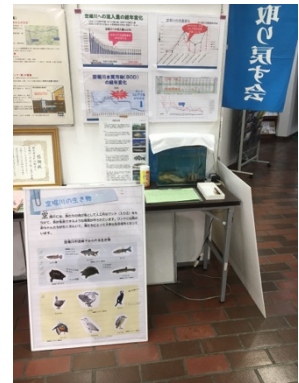
12月末まちかど清掃に参加



ジャーマンアイリス・チューリップの植栽 美住町、久米川町



東村山市 環境フェア 出展



NPO 定例会(原則第2土曜日)地域福祉センター



公開勉強会





## 当会の水質・水量調査の結果(2005-2019年)

### 水質

pH(酸性かアルカリ性か？pH7.0が中性 7.0以上はアルカリ性)パックテストによる簡易法による。

測定場所 測定日	上橋	浄水橋	御成橋	共催	がたろう通信
2005/6/5	9.5	7.0	7.3	三中	NO.44*
2009/11/19	9.0	8.0			
2010/6/12	9.5	7.0	7.0		*
2015/6/7	9.5	9.0	7.0		NO.86*
2016/6/5	9.5	9.0	8.5		NO.86*
2017/6/4	9.0	9.5	9.0		NO.90*
2018/6/2	9.5	9.0	8.0		NO.94*
2019/6/2	9.5	9.0	8.5		NO.98*

空堀川は、全体的にpHが異常に高くアルカリ性である。

御成橋にJR武蔵野線の湧水が流入していて、pHが下がっている。

COD(化学的酸素要求量 mg/L)パックテストによる簡易法による。

数値が少ないほどきれいな水。

河川的环境基準は、BODであるが、試験方法が難しいためCODで代用している。

大体5以下で魚が住める。

\*は、新河岸川流域 水循環連絡会に報告。

測定場所 測定日	上橋	浄水橋	御成橋	共催	がたろう通信
2005/8/31-9/2	15.0		2.0	三中	NO.44*
2009/11/19	6.0	8.0	8.0		
2010/6/12	8.0	8.0	4.0		*
2015/6/7	3.7	2.3	0.7		NO.86*
2016/6/5	5.3	6.0	2.0		NO.86*
2017/6/4	6.7	5.0	2.0		NO.90*
2018/6/2	5.3	4.0	2.0		NO.94*
2019/6/2	2.0	4.0	2.0		NO.98*

全体的には下がってきているが、流量が少ない2010,2017年はCODがやや高い。

一般的に川は、下流に行くほど汚染されてCODが高くなりますが、空堀川は下流の方が低くなっている。特に御成橋は、JR武蔵野線からの湧水が流入してくるので、低くなっている。

EC(電気伝導率  $\mu\text{S}/\text{cm}$  数値が大きくなるほどイオン量が多い)電気伝導率計による。  
イオン量が多いのは、汚染されている水。東村山浄水場の水道水は、150程度。純水は、0。

EC調査結果		$\mu\text{S}/\text{cm}$			*は、新河岸川流域 水循環連絡会に報告
測定場所 測定日	上橋	浄水橋	御成橋	共催	がたろう通信
2005/6/5	1200	800	300	三中	NO. 44*
2006/8/31-9/2	826	780	406		*
2009/11/19	493	287			
2010/6/12	1195	1060	453		*
2015/6/7	312	144	148		NO. 86*
2017/6/4	202	268	388		NO. 90*
2018/6/2	1753	1064	395		NO. 94*
2019/6/2	1060	1013	320		NO. 98*

御成橋は、JR 武蔵野線の湧水が流入しているので、EC が下がっている。

## 流量(上橋、浄水橋、御成橋付近 $\text{m}^3/\text{秒}$ )

川の断面はスケール・テープ、流速は浮子法による。

$0.1\text{m}^3/\text{s}$  は、1秒間で浴槽半分程度で、1日で  $8,640\text{m}^3$  です。水色は、豊水年。

測定場所 測定日	上橋 狭山堀橋	ワンド、浄水 橋、第二砂川・ 下堀橋	御成橋 達磨坂橋	三郷橋	共催	がたろう通信 報告書
1997/6/8		0.048				NO. 4
1998/6/7	0.113					NO. 10
1999/9/10	0.086					
2000/6/11	0.129	0.072			三中	NO. 22
2001/6/9, 10		0.073	0.019		三中	NO. 28
2001/7/8		0.043			三中	空堀川の流量調査報告書 H14. 3
2001/11/14-25	0.109					
2001/12/2		0.041	0.020		三中	
2002/2/27		0.0920			三中	
2003/6/8	0.093	0.080		0.010	三中	
2005/6/5		0.056	0.087	1.039	三中	NO. 44*
2006/6/		0.072				*
2007/6/3	0.058	0.029	0.019	1.039		*
2009/6/7				0.525	全箇所	2日14.5mm NO. 59*
2009/7/4		0.072		0.300		NO. 60
2009/12/12		0.080				NO. 61
2010/6/6	0.050	0.029	0.019	-		*
2012/6/3	0.390	0.350	0.230			5/29 21mm, 前日1.5mm
2013/6/1	0.082	0.138	0.040			*
2014/6/9	0.970	0.956	1.081	0.778	全箇所	1日延期5日雨318.5mm*
2015/6/7	0.379	0.347	0.225	0.090		*
2016/6/5	0.082	0.138	0.040			NO. 86*
2017/6/4	0.103	0.053	0			NO. 90*
2018/6/2	0.017	0.004	0.030			NO. 94*
2019/6/2	0.097	0.035	0			NO. 98*

## 6. 空堀川の将来像(柳瀬川・空堀川流域連絡会第7期)

これが空堀川があってほしい姿です。

柳瀬川・空堀川流域連絡会では、第7期で空堀川の将来像についてまとめました。

大雨で溢れない川にすることは勿論ですが、いつでも水の流れていて人が親しめる川にしたいという意見が多かったです。



## 7. 現在の空堀川の問題点と改善方法についての提案

平田 健一

空堀川は、現在 洪水対策を主眼として河川改修を行っています。その結果、改修の終わった区間では以前は毎年のようにあった溢水が少なくなっています。気候変動によりゲリラ豪雨的な雨が降り、洪水を引き起こしています。

しかし、現在の空堀川の問題は、常時の水涸れです。流域下水道の整備により、家庭排水が清瀬市の清瀬水再生センターに送られ、空堀川でなく柳瀬川に放流されるようになって、一時は都内でワーストワンであった水質は良くなりましたが、水量が激減しました。更に、上流部の東大和市内の河川改修で水が川底から浸透するようになり、主に某乳製品メーカーの工場の高度浄化された排水が東村山まで流れてこなくなりました。今は、新青梅街道が空堀川を渡る浄水橋から下流約5 km は、普段水が流れていません。雨が降ったときだけ雨水が流れて、3日もすると流れが無くなります。水が流れなければ、魚や鳥は住まず、以前は河原にあったヨシはごく一部だけになり、クレンソウは無くなりました。

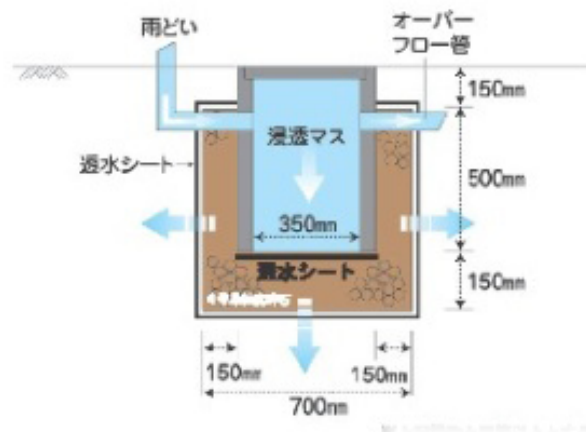
この状況の原因と対策を3つにまとめてみました。

原因	⇒	対策
○都市化で雨水が地下に染み込まなくなる		雨水浸透ますの普及(恒久対策)
○河川改修により、川底から水が浸透する		川底に粘土貼り (河川改修方法の改善)
○流域下水道の普及により、 家庭排水が川に流れなくなる		短期的に玉川上水と野火止用水からの引水

### ・雨水浸透ますの普及

これが一番本質的な対策です。洪水と水涸れの両方に効果があります。

宅地や道路は、雨水の80%は地下に染み込まず直接川に流れてしまいます。対策として、下図の雨水浸透ますを強力に普及させます。現在は大規模開発以外は義務付けにはなっていませんが、**全ての宅地に義務化**します。それにより、雨水が地下水になり、ゆっくりと川に出てきて、魚や鳥が住めるようになります。



## ・河川改修方法の改善

川底に粘土を貼って、水漏れを無くします。今まで、空堀川の一部では行っていますが、川の中央部だけなのと行っている範囲が短いので効果が出ていません。

## ・玉川上水と野火止用水からの引水

上の2つの方法は効果が出るのに数十年の年月が掛るので、その効果が出るまでは引水を行います。どちらも1日 5000t 程度、合計 10000t とします。雨のときには、ゲートにより取水を停止して、雨水管があふれないようにします。現在の空堀川のほぼ唯一の水源である某乳製品メーカーの高度処理水の排水量が1日約 5000t です。河床からの漏水を考えても両方で 10000t で効果があると考えられます。

**玉川上水:**西武拝島線 玉川上水駅のすぐ南を玉川上水が流れています。羽村で取水した多摩川の水が自然流下で1日約 80000t 流れているので、西武拝島線の地下道に直径 300mm 程度の配管をして、拝島線北の芋窪街道雨水管(既設)に接続すれば、自然流下で空堀川に流れます。

**野火止用水:**現在、多摩川上流水再生センターからの高度処理水が流れていて、オイカワ・コイなどが生息しています。この水を増量して、府中街道九道の辻から府中街道の雨水管(既設)に接続すれば、自然流下で空堀川に流れます。多摩川上流水再生センターの高度処理の能力には、この程度の余裕があります。

図に示すと、下のようになります。



## 編集後記

岡田 一郎

からぼり川100号特別記念号にご寄稿いただきました皆様に心から感謝申し上げます。なお限られた紙幅を空堀川に想いを寄せる絆の強い仲間の方々に分かち合ったことをお許し願ひ、皆様の玉稿は当会への入会順に編集させていただきましたこととお断りいたします。

昨年9月の定例会で、令和2年初頭には「がたろう通信 からぼり川」は記念の100号発行を、同時に2月には当会のNPO法人創立20周年を迎えるという二つの節目に当たる意義と記念活動策のあり方を紹介しました。

その記念祝賀を最良の形とすべく小冊発行とその概容案を諮り、参会会員から賛意を得たことで、「からぼり川100号発行委員会」の設置とその活動メンバー6名を募り拙速ながら委員会を立上げました。2019年9月28日の第一回発行委員会では企図した発行計画と小冊の概容、ページ建て等を確認し、がたろう通信99号（2019年10月12日発行）にて広く会員皆寄稿を目指す「がたろう通信 からぼり川100号記念特別号」掲載の原稿執筆をお願いしました。併せて渡部市長はじめ当会への主導的支援者6名の特別寄稿は、友保理事長が直接懇請して、発行委員それぞれが担った任務を全うして短期間での活動ながら茲に「会報 からぼり川第100号」・「NPO法人設立20周年記念号」を本来の目標に近い形で編むことができました。

私は「からぼり川 創刊号」から第99号までの綴り集を座右の書にしております。幸いに入会前の創刊号から43号までを、元理事の有川栄子様から一昨年夏に譲り受けました。会設立者の小林寛治様はじめ理事の任を担われた渡辺勇氏、田中開氏（故人）、宮下博文氏（故人）などの、各号随所に見る空堀川に寄せる特別の想いや活動報告から先覚者達の会設立黎明期の金字塔とも評価できる事績を深く探り、直に慈愛懇切な指導を得た往時を懐古して改めて全99号綴り集は貴重な「空堀川物語・ノンフィクション」と再認知しました。

二つの節目の記念に編まれた小冊「会報 からぼり川第100号」・「NPO法人設立20周年記念号」が先達諸氏の築いた歴史を継承した平成時代の空堀川に関わる活動の証の一つとして周知され、さらに国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標 特に13,14,15のテーマ）が強く問われる次代の活動はより深化した形で引き継がれて行くことを切望します。

からぼり川100号記念号 発行委員会 友保邦弘・垂水荘司・平田健一  
小池一平・小川恭子・岡田一郎

からぼり川 がたろう通信 第100号

2020年2月15日発行

特定非営利活動法人 空堀川に清流を取り戻す会

ホームページ: <https://www.karaborigawa2.org/> ブログ: <https://karabori.exblog.jp/>

発行責任者: 友保邦弘 TEL/FAX 042-394-9978 東村山市萩山町 2-19-10

「がたろう」とは、河太郎(カッパ)の事で、当地にあったカッパ伝説にちなんで付けたものです。



